



日本大学明誠高等学校
Nihon University Meisei Senior High School

創設 60 周年記念誌 2020

NU Meisei 60th Anniversary Book
(Focusing on the Last Decade 2011-2020)



校 訓

至 誠
努 力
調 和

日本大学明誠高等学校校歌

森脇一夫 作詞 岩河三郎 作曲

朝日に映えてそそり立つ
富嶽の姿さながらに
浄く正しく明らけく
至誠の道を貫かん
われ詠嘆の声あげて
明誠われらが母校
明誠われらが母校

山紫に水清く
生氣はここに溢れつつ
高き理想を胸にして
不撓の努力誓ひたる
見よ健児らが眉清し
明誠われらが母校
明誠われらが母校

焰の色に雲湧けば
胸に希望の火ぞ燃ゆる
緑の丘に吟誦けば
調和の啓示新たなり
ああ意気高き青春譜
明誠われらが母校
明誠われらが母校





目次

60周年を迎えて

創設 60 周年記念誌 ごあいさつ 校長 土屋 明彦	2
更なる飛躍を 第 13 代校長 大山 矩行	3
創設 60 周年を祝して 第 14 代校長 橋都 哲磁	3
創設 60 周年を祝して 第 15 代校長 前嶋 俊夫	4
『照顧脚下』 第 16 代校長 奥秋 昭蔵	4
創設 60 周年を祝して 後援会会長 奈良 智昭	5
日本大学明誠高等学校創設 60 周年に寄せて 同窓会会長 高橋 政雄	5
創設 60 周年に寄せて ～教員～	6
創設 60 周年に寄せて ～元教職員～	8
教員生活 10 年目を終えて	11
創設 50 周年記念式典	12
10 年間の出来事	14
国際交流	18
学校行事	20
巨大壁画の 10 年間	26
サッカー部選手権大会出場	32
ダンス・チア部全国大会出場	34
運動部この 10 年	36
文化部この 10 年	40
この 10 年間の振り返り	
教務部	42
進路指導部	43
生活指導部	44
図書部	45
保健衛生部	46
生徒会指導部	47
入試委員会	48
広報部	49
教員の海外研修	50
新校舎（完成予想図）	51
10 年間の担任一覧	52
10 年間事務職員一覧	54

60周年を迎えて



創設 60 周年記念誌 ごあいさつ

校長 土屋 明彦

日本大学明誠高等学校は、創設 60 周年を迎えました。

この記念すべき日を迎えることができましたのも、ひとえに、創設以来本校の教育に御支援、御協力いただきました地域の皆様方、後援会をはじめとした保護者の皆様方、また、これまで本校の教育を支えてこられました歴代の校長先生をはじめ多くの教職員の方々、そして何よりも努力を積み重ねた卒業生のおかげであると心より感謝申し上げます。

本校は上野原町の強い設置の要請を受けて、日本大学創立 70 周年記念事業の一環として昭和 35 年 4 月に創設されました。日本大学の正付属高校であることから設置時から注目されており、初代校長は我が国の民法学の権威者で、第 5 代日本大学総長を務められた永田菊四郎博士です。

創設時より 60 年間に渡り、日本大学の建学の精神に則った「明き、清き、直き、誠の心」を受け継ぎ、自主創造を養い、個性豊かな心を育成してきました。これまでに本校を巣立った卒業生は 2 万人を数え、県内外の各界、各方面にて大いに活躍されています。

本校は平成 25 年から令和 4 年までの 10 年間で特に大切に学校改革を行っています。現在本校が大切にしていることは「人間力の養成」です。この事柄を実現させるためにはまず生徒を知ること、そしてやりたいことに応え、それに向けて挑戦させることが大切です。この流れが本校の生徒指導のサイクルです。その結果、平成 27 年の日大進学率が 60% 弱であったのに対して今年度の日大進学率は 70% を超え、着実に向上しています。この期間には先生方の意識改革が行われ、先生方自身も学び、成長を遂げました。部活動においても令和元年にはサッカー部が全国高校サッカー選手権大会に初出場を果たし、ダンス・チア部も全国大会で第三位の成績を残しました。

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振りました。この感染症は先が見えないため、学校での教育内容や行事予定を大幅に変更せざるをえない状況になりました。しかし、誰しもが経験したことがない未曾有の出来事を我々はマイナスに捉えるのではなく、プラスに捉え前進しなければなりません。そして更なる変化が予想されるこれからの時代において、我々は常に新しい教育の在り方を模索していく必要があります。例えば ICT を活用した教育活動も従来の対面型の活動と並行して進めていきます。また、令和 6 年には新校舎が完成する予定です。新校舎が完成すれば新たなスタートになるのではないかと期待しています。

日本大学の建学の精神と本校の校訓である「至誠・努力・調和」に則って、これまでの教育実践をさらに加速させ、豊かな個性と優れた人格、心身ともに健康で進んで未来を切り拓き、逞しく生きる生徒を育成できる学校を目指します。そして本校発展のために、60 年の歴史の中で築き上げられた伝統を守りながら新しい教育方法も取り入れ、日本大学明誠高等学校はさらなる一歩を踏み出していきます。卒業生、在校生ともに「入学して良かった、卒業して良かったと言える学校」でありたいと考えています。

結びに、本校 60 周年記念誌の準備に当たり、御尽力、御協力いただきました皆様方、御多忙中にもかかわらず玉稿をいただきました皆様方に深く御礼を申し上げます。



更なる飛躍を

第 13 代校長 大山 矩行

創設 60 周年おめでとうございます。十年ひと昔と言いますが、創設 50 周年を祝い定年退職をしたのが昨日のようです。

初めて上野原の駅に立ち、すれ違う生徒の明るい笑顔を見ながら学校への坂を上がっていきました。梅の花がまだ残っていました。まず近隣の中学校に挨拶に行かねばと、事務長と出かけました。静かな校庭で休みの日かと思いきや校長室に案内されると、生徒は授業を受けていますと、言われました。中学 3 年生は 6 名、在籍数は 20 名そこそこでした。

上野原は生徒数が激減し統廃合が進み、次に訪問した中学校は在籍数 16 名でした。学校に戻り校長室で、どうやって生徒を集めれば良いのだろうと、しばらく外の景色を眺めていました。山の合間に富士山の姿が目に入ってきました。

後援会の方が挨拶に来てくれ、この方が 4 年間会長として、学校を支えてくれました。現状を打破するのに、教職員の皆さんに数々の提案をいただきました。学校を活気づけるため、後援会の皆さんに学校行事に参加するように会長にお願いしました。次第に行事が盛り上がってきました。

学校のパンフレットを持って、中学校を廻ってくれる方も出てきました。みなさん明誠高校が好きなんだとつくづく思いました。

あっという間の 4 年間でした。多くの人達に支えられた毎日でした。一層の発展を祈っています。



創設 60 周年を祝して

第 14 代校長 橋 都 哲 磁

創設 60 周年、まことにおめでとうございます。さらにこのたび記念事業の一環として記念誌を発行されることは、まことに意義深いものであり、心からお祝いを申し上げます。

この 60 周年という長い年月には、紆余曲折があったことと思われまふ。そのいろいろな苦難を克服しながら輝かしい歴史と伝統を築き上げ、数々の教育成果を積み重ねて今日に至ったことは御同慶の至りであります。

私は平成 23 年 4 月 1 日付けで着任してから 3 年間職責を果たしてまいりました。着任の前月 3 月 11 日は忘れる事のない東日本大震災が起き、富士山噴火の風評が立ち生徒募集において、慌ただしい日々であったことを思い出します。またより良い教育を目指すには、教育環境の整備充実が不可欠であると考え、その一環として授業・部活動・学校行事等において生徒に怪我のないことを願ひ人工芝を設置できましたことは、この上もない喜びでありました。3 年間無事に職責を果たすことができましたことは、ひとえに日本大学本部・教職員・そして後援会・同窓会の皆様の格別のご厚情とご支援の賜と深く感謝しております。教育はいつの時代も理想と現実のはざまにあり、苦しみながらの営みであります。全教職員の「和」と「協力」のもと教育の実践を推し進めていくことを願っております。

最後に 60 周年を契機として日本大学明誠高等学校がさらに限りない発展を遂げられることを心より祈念いたします。



創設 60 周年を祝して

第 15 代校長 前 嶋 俊 夫

日本大学明誠高等学校創設 60 周年、誠におめでとうございます。初代校長を務められた永田菊四郎先生の熱き指導に始まった日本大学明誠高等学校の歩みは、ここに 60 年の節目を迎え、深い感慨を覚えます。

私が明誠高校の教師になったのは創設 20 周年が過ぎたばかりのときでした。その頃は男子生徒が圧倒的に多く、女子生徒は数えるほどでしたが、その後の制服改定を機に女子が徐々に増え始めてきたように記憶しています。そして、現在の明誠高校の多様な教育活動の姿を見ると、昔とは隔世の感があります。

校長としての実績は乏しいですが、学級担任や部活動を通して、生徒と共に学び、成長できたことは我が人生最大の宝です。また、Teachers' Band を組んで、生徒に加わって文化祭や予餞会（3 年生送別会）で演奏したことも良き思い出の一つです。学校を去る日、かつての生徒たちが「先生、長年お疲れ様でした」と言って、花束を手に労いに来てくれました。実に教師冥利に尽きるものでした。

現在、世界は「新型コロナウイルス」という未曾有の脅威に晒されています。この影響により社会は様々な面で変革を余儀なくされています。教育現場も例外ではありません。「教育の計は 100 年にあり」と言います。課題も多々あると思いますが、教職員の方々には、長期的視野に立ち、高き理想のもと、人材の育成に邁進されることを願う次第です。最後になりましたが、教職員並びに学校関係の皆様方のご尽力に改めて感謝申し上げますとともに、明誠高校の益々のご発展を祈念いたします。



『照顧脚下』

第 16 代校長 奥 秋 昭 蔵

本校が創設 60 周年を迎えられたこと、心からお喜びを申し上げます。

人に例えれば「還曆」。「生まれたときに還る」という意味です。

昭和 35 年上野原の地に誕生、爾来、初代校長永田菊四郎先生はじめ数多くの先人の方々の教育に対する情熱、熱意、たゆまぬ努力、ご苦勞と献身に対して敬意を表さずにはられません。

正月に訪れた禅寺の玄関に「照顧脚下」の木札がありました。住職は「本来『履物を揃えなさい』の意味だが、『自分自身の立ち位置をしっかりと見つめ直しなさい』という事も含んでいる」と言われました。

世の中はめまぐるしく変わり続けています。教育界も例外ではありません。周りに遅れてはならずと皆、せわしく走り続けます。しかし、そのことばかりに気にしすぎると、脚下（あしもと）を見ることが出来ずに忘れ物や落し物をしていることさえも気づきません。また、向かうべき方向が間違っているにもかかわらず走り続けてしまうかも知れません。自分の脚下を確認するためには、一旦立ち止まることも必要かと思えます。そして、自分の立ち位置を知ることが出来れば、正しく自信を持って次の一步が踏み出せるでしょうし、軌道を修正することも可能です。

現在、悲願であった大規模事業計画が進行中です。歴史に残る大事業です。この機会を逃してはいけません。全教職員が一丸となり成功させねばなりません。「照顧脚下」の精神を共有するとともに、原点に戻り、今まで以上に教育に邁進してください。

60 周年は通過点です。ここを新たな出発点とし、教職員の一層の研鑽と自助努力、進むべき方向性の共有と共通理解の徹底を図ることを心よりお願いを申し上げます。

最後になりますが、60 周年記念誌の編纂にご尽力いただきました委員会の先生方に深く感謝申し上げますとともに、日本大学明誠高等学校の更なる発展を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。



創設 60 周年を祝して

日本大学明誠高等学校 後援会会長 奈良 智 昭

日本大学明誠高等学校が、この度創設 60 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

また、今までに本校の教育に限りなく情熱を注ぎ、これまでの歴史と伝統を築いてこられました歴代校長先生をはじめとする教職員の皆様並びに地域の皆様方、そして歴代の後援会会長をはじめとする保護者の皆様方には深く敬意を表すとともに、心から感謝を申し上げます。

この記念すべき節目の年に、本校後援会会長を仰せつかったこと、また本校の様々な活動に携われたことに感謝と喜びを感じております。

後援会も、本校開校と共に発足した同じ 60 周年を迎える歴史と伝統があります。今後も歴代の先輩方が築いてきた後援会活動を長きにわたり継承していくことは、我々現役の保護者のミッションであり責任の重さを痛感しております。

後援会として学校行事に携わった「強歩大会」では激走の後に振舞った愛情たっぷりの豚汁を生徒達が美味しく食べている姿と最高の笑顔、「誠祭」でバザーの準備作業から販売までを学校と連携し成功させ教職員と保護者の親睦が深まったことなど活動の全てが目に焼き付いております。このような素晴らしい活動は、70 年、100 年と更に歴史を築いていけるように祈念して、お祝いの言葉といたします。

最後に昨今、時代の変化や社会情勢の変移により生徒達は、激しい逆風と試練が待ち受けております。自然豊かな日大明誠高校での生活を誇りに自信と夢と勇気をもって飛躍してほしいと保護者は深く願っております。地域の皆様、教職員の皆様どうぞよろしくお願いいたします。



日本大学明誠高等学校創設 60 周年に寄せて

日本大学明誠高等学校 同窓会会長 高橋 政 雄

私の母校でもある日本大学明誠高等学校が創設 60 周年を迎えることは、まことにめでたく喜ばしい限りです。同窓会を代表いたしまして、心からお祝い申し上げます。

本校の栄える歴史と伝統の陰には、情熱的に生徒をご指導いただきました歴代校長先生をはじめとする全ての教職員の方々、変わらぬご厚情とご支援をいただいている地域関係者の皆様、後援会、同窓会の皆様のおかげと深く感謝と敬意を表したいと思います。

母校は、1960 年 4 月、日本大学創立 70 周年記念事業の一環として上野原町に開校、すでに半世紀、「至誠 努力 調和」の校訓のもと、23,000 名を超える母校を巣立った卒業生は幅広く社会を支え、各方面で活躍をされています。

私は昭和 47 年度卒業で、校訓のもと夢や希望を持ちながら高校生活を送りました。

卒業後ですが、1997 年（平成 9 年）の第 69 回選抜高等学校野球大会に出場を果たし、甲子園球場で生徒たちが躍動する瞬間を息子と一緒に応援した思いで、その息子が明誠高校から同じ日本大学に進学したことも思い出に残っています。

ご承知の通り新型コロナウイルスの感染症が、一個人・一高校の問題ではなく、日本・世界全体の問題となり、私たちの暮らしそのものを根底から揺るがし続けています。入学式をはじめ各種の学校行事の変更はもとより、授業の形態までもが変わりつつある状況にあります。こうした中、希望を見出し・ピンチをチャンスに変えていくこと、それぞれ各々で考えていくしかないと思いますが、同時に同窓生としては、母校や生徒たちがこのピンチを乗り越えるべく全力で支援することと思います。

最後になりましたが、60 周年とはいえまだまだ通過地点です。歴史と伝統を静かに眺め続けてきた日本大学明誠高等学校が今後益々の隆盛を極め、在校生徒の更なる飛躍、将来を目指し、かけがえのない青春を謳歌し、変化の激しい社会で臆せず堂々と生き抜けることを祈念申し上げ、ご祝辞とさせていただきます。



明誠高校 60 周年記念にあたり

教諭 金 箱 信 (第 1 学年主任)

私が明誠高校に入学した当時 (平成 3 年)、3 年生はまだ学ランでした。1 号校舎の廊下は吹きさらしで窓がなく、男子トイレの入り口には扉がない。冬の暖はスチームでとるため、授業中にウォーターハンマーの音が鳴り響き、誰かが温める弁当や干されたソックスの芳香が漂っていました。まだ 50 メートルのプールがあり、一度、池の様な緑色に変色したプールに入った記憶があります。修学旅行は北海道一周。ひたすらバスに乗り続けたのも今では良い思い出。先生方含め、「すべてをユーモアに変えるエネルギー」が溢れていたように思います。多くの方々によって支えられ、年輪を重ねてきた明誠高校。まだまだ進化を続けています。70 周年に向け、私も明誠とともに成長していきたいと思います。



10 年を振り返って

教諭 大 森 康 勝 (第 2 学年主任)

50 周年から 60 周年までの 10 年間は明誠高校にとって飛躍の 10 年だったと思います。日本大学への進学実績、文化祭や明誠フェスティバルなどの学校行事の活性化、部活動における全国大会へ出場する部の増加、グラウンドの人工芝化など教育面や施設面での充実が生徒数の増加に繋がっていったのだと思います。

生徒の質も変わったように思います。素直な生徒が増え、10 年前と比べればだいぶ手がかからなくなりました。ただ逆に不満があっても表に出さない分、何を考えているのか分からない生徒も増えた気がします。

60 年という時間の積み重ねの中で、現在の明誠高校があります。先人の残してきたレガシーを踏まえて ICT 教育への一歩目を踏み出す本校の益々の発展を期待しつつ、微力ながら貢献していければと思います。



経験と成長

教諭 梅 田 祐 司 (第 3 学年主任)

本校に勤めて、今年で 16 年目。50 周年が終わってからの 10 年を振り返ると、教員として、部活動顧問として、様々なところに行き、多くの経験をさせていただきました。部活動はスキー部顧問として、平成 23 年から今年度までスキー部は 9 回と、ほぼ毎年全国大会に参加し、山形県、北海道、秋田県 2 回、群馬県、岐阜県、長野県と行きました。地歴公民の教員をしているので、全国各地を巡ることは現地の様々なものを見られる良い機会となりました。また、平成 23 年度に日大の短期 B 研修でヨーロッパ、平成 24、25、27、30 年度には海外語学研修の引率でニュージーランドにと海外へ行く経験もさせていただきました。この経験は世界史を教える際に非常に役立っています。生徒が学校生活で成長するのはもちろんですが、教員も多くの経験をさせてもらい、成長すると実感した 10 年でした。明誠高校は修学旅行等で海外に行く機会があり、それが生徒の成長につながっています。現在はコロナ禍で厳しいですが、今後生徒が海外に行く機会が復活することを期待しています。



変わらない「誠」の心

教諭 小 峰 浩 義

私は 2010 年 4 月に明誠高等学校に着任しました。明誠高等学校 60 年の歴史には及ぶべくもありませんが、早いもので働き始めて 11 年の年月が経ちました。当時は、まだ二学期制、グラウンドは土でした。また、制服の改定の時期でもあり、二種類の制服の生徒が歩いていたのを覚えています。

11 年の間に、三学期制に戻り、グラウンドは人工芝になりました。忙しい日々の中ではなかなか気づかないものの、改めて振り返ってみれば学校の雰囲気も少しずつ変化してきたように思います。しかし、生徒も教職員も同様に相手を思いやる「誠」の気持ちは次第に深まりこそすれ、変わることなく受け継がれていると感じます。今後もよき歴史を継承し、明誠高等学校がますます繁栄することを祈ります。



柔軟に変わっていきける学校に

教諭 阿 部 栄 祐

「50 周年からの 10 年間の明誠高校」というテーマで 60 周年記念誌に載せる文章を書いてほしい、この話を受けて最初に「まだ勤務 6 年目だけど私でいいんですか？」というのが正直に感じたことです。ただ同時にこの 6 年間の思い返すと、こういうことが少なからずあり、その度に自分の考えを聴いてもらい、身になる経験をさせて頂いたとも感じています。明誠高校は新しい考え方に柔軟に耳を貸しながら、生徒も教員も育てようという土壌を元々持っていると思います。学校教育がこれから複雑に変化していく中で、この土壌を失わずに学校で学ぶ生徒たちが、そして学校全体が大きく成長できる助けになればと思います。



激動の 10 年を乗り越えて

教諭 小 林 泰 一

ちょうど 10 年前、2011 年に 3.11 東日本大震災が発生しました。この災害は、本校の立地条件から生徒募集に深刻な影響を及ぼしました。その状況が好転するのに数年かかりました。2013 年には基礎学力到達度テストが始まりますが、当初この新制度は本校に非常に不利だと言われていました。ところが、この逆境をチャンスに変えて、本校は日大進学率を伸ばしてきました。

また、その間に先輩の先生方が次々に定年退職を迎えられ、新採用の若い先生方が次々に本校に赴任され、気がつけば自分が最年長の教員になっていました。教職員室はすっかり代替わりをして、若い先生方の活力が新たな流れを生み出し、明誠高校が新たな興隆の時代を迎えているのを感じています。

新型コロナウイルス感染という未曾有の世界的な災厄が発生して 1 年になりますが、それを乗り越えて、現在、新校舎建設に向けて、明誠高校は更に新たな時代を切り拓こうとしています。



創設 60 周年を祝う

元教諭 小 俣 康 信

創設 60 周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

平成 25 年 12 月、日大明誠高校での 42 年間の勤務を終え、定年退職いたしました。思えば、高校・大学・勤務等、私の人生すべてが日大でした。退職まで過ごした私には溢れるほどの思い出があります。学級担任・分掌主任、とりわけ生徒会主任や教務主任の思い出が走馬灯のように脳裏を駆け巡ります。全力投球で取り組んだ生徒への情熱指導、関係者各位のご支援・ご協力を得た後援会委員の方々との諸活動、教職員一丸となって取り組んだ各行事等々、沢山の思い出を残すことができました。学年主任の時の親睦を目的とした学年研修旅行は、笑いあり涙ありの思い出の一つです。素晴らしい先生方のご協力に感謝しております。

現在、日本大学文理学部校友会山梨県支部長として日本大学にかかわりを持たせていただいております。

日本大学明誠高校の益々のご発展と教職員の皆様方のご健勝を祈念申し上げます。



思い出の甲子園

元職員 荒 井 和 夫

私は平成元年 1 月より令和 2 年 9 月まで約 32 年間事務職員・野球部の監督としてお世話になりました。野球部の監督は約 23 年間やらせていただきましたが、中でもやはり一番の思い出は平成 9 年 3 月に出場した春の選抜大会です。3 月 26 日の開会式後の第一試合と重なりピンクに染まった満員のスタンドで山口県代表の豊浦高校と対戦し勝利したこと、そしてバックスクリーンのオーロラビジョンに校歌が流れた時は、これで全国にいる同窓生にも喜んで頂けると思うと鳥肌がたちました。2 回戦は兵庫県代表の報徳学園に敗れてしまいましたが、全国に日大明誠野球部の名を知ってもらえた瞬間ではなかったかと思えます。就任して 5 年で全国大会出場を目指したのですが 9 年かかってしまい、悔しい思い出ばかりでしたが校歌を聞いた瞬間忘れることができました。長い間応援して頂いた学校関係者や同窓会、後援会、野球部 OB 会の皆様には心より感謝申し上げます。これからも明誠野球部をよろしく願い申し上げます。



限りなきもの

元教諭 水 野 正 実

創設 60 周年おめでとうございます。私も昨年めでたく 70 周年を迎えてしまいました。私は本校の同窓生でもあります。在学していた時は個性的という言葉では表せないほどユニークな先生方がいらっしゃいました。

机の中で九龍虫（当時不老長生の聖虫とされていた）を養殖して、生きたままお飲みになっていた先生。プールの裏からヒキガエルをたくさん捕まえてきて、焼いてお食べになっていた先生。黒板消しがなかったり汚れていると、ごく普通に着ているスーツの袖で消していた先生。授業が昂じてくるとその階の隅々まで声が響き渡る先生、等々……

そのような先生方に教授していただいた私は必然的に〇〇教師になっていたのです。退職して 5 年、枯葉がカサカサと語り掛ける齢となりましたが、枯葉の主は毎年遅く成長するでしょう。日本大学明誠高等学校の益々の発展は確実です。



あの頃は

元教諭 大神田 久

昭和 48 年 (22 歳)、私は男子生徒 65 名の担任であった。1 学年だけで 14 クラスもあり、私は 1 年 13 組の担任である。大人数の教室の中で試験なども行われた。授業の持ち時間は週に 21 時間あった。このような状況は現在ではありえないが、当時は問題もなく実施されていたのであろう。私の教員スタートである。

あの頃は学校がスポーツに力を入れていた時でもあり、部活動は盛んであった。私は卓球部の顧問であり、部員とトレーニングなども行ったりしたこともあった。インターハイには 6 年連続出場 (通算 7 回) を果たすことができた。あの頃は目標に向かって頑張っていたのだろうか。

若かったなあ、あの頃は……。



アキラ先生

元教諭 加藤 晃

創設 60 周年おめでとうございます。

私が生徒として在校している時には「加藤」姓の教員は 1 人しかいませんでしたが、勤め始めて 4・5 年後から「加藤」姓の教員が俺・廣和・栄作・松雄・亮子・ゆり枝の 6 名までになりました。この中に数学を教えている教員が 3 名もいたので「加藤先生」と呼ぶのに困るようになり、名前で呼ぶようになったのです。そのころから「アキラ先生」と呼ばれるようになり、それ以降「加藤」姓の教員が減るようになって、1 人だけになっても退職するまで「アキラ先生」という呼び方は変わりませんでした。それがとても良い思い出です。

これからの貴校の益々の発展を願っています。



ワンチーム

元教諭 坂本 博

創設 60 周年を迎えられ、誠におめでとうございます。母校に昭和 47 年 4 月に奉職し、約 45 年間英語教師として勤務しました。在職中は数多くの経験をさせていただきました。甲子園出場もその一つです。野球部部長として平成 9 年第 69 回選抜野球大会に出場することができました。開会式直後の 1 回戦を勝利し、2 回戦で敗れましたが、あの時の学校全体の盛り上がりは生涯忘れる事はできません。もう一つは定年を迎える 2 年前、暫く離れていたクラス担任を持ちたいと校長に直訴したところ快く受け入れて頂いたことです。この 2 年間は教員生活の集大成でした。明誠高校は素直で純朴な生徒達と面倒見の良い教職員の方々がワンチームとなって盛り上げていくことが 60 周年を迎えられた本当の立役者だと思います。これからも百周年をめざして益々発展される事を願っています。



♪ 明誠～我が母校、明誠～我が母校 ♪

元教諭 手塚 秀昭

創設 60 周年おめでとうございます。

私は“教師”という夢を、43 年間の長きにわたり叶え続けることが出来ました。公立高校出身で“規律ある自由”の校風を肌で感じてきた私は、細かい規則の下で学校生活を送る生徒に、一種の驚きを感じました。

赴任当時、生徒は 2000 人を超え、教員も若く活気があり、そのエネルギーが、私学として初の県総体優勝（2 年連続）の原動力になり、一体感が生み出されました。そんな雰囲気にも押されて、サッカー部を指導し紆余曲折後、インターハイ・関東大会に出場できたことも心に残っています。

ここ数年、入学者も日大への進学率も著しい上昇カーブを描いています。学校評価は第一に進学実績が対象とされますが、真の評価とは、《その学校がどのような人材を輩出するか》によるとされています。この先さらに発展を続け、校名の前に『名門』の称号が付けられることを切に願うものであります。



明誠高校の思い出

元教諭 檜垣 英治

創設 60 周年まことにおめでとうございます。

私自身の本校入学式では、日本大学総長、初代校長の永田先生から「明き、浄き、直き、誠の心」の言葉を聴けたことが思い出です。

第 4 代校長の森本先生からは箱根駅伝の逸話を聴き、事あるたびに“追いつけ、追いこせ”と励ましの言葉を頂き、県高校総体では本校が優勝し、甲府市内や上野原の町をパレードした事が思い出となっています。

第 10 代校長の水田先生からは母の尊さ、愛情、思いやり、母を大事にするように教えを受けました。

日大櫻丘高校の校長先生になられた時乗先生からは、ホームルームの進め方や生徒指導の基本など熱心に指導していただき、公私共に御世話になりました。

クラブ活動の指導では、多くの生徒が活躍し、良い思い出が出来ましたが、一番の思い出は、息子を引率して臨んだ全国高校総合体育大会で日本高校記録を樹立して、優勝したことです。

多くの先生方に助けていただき、又、優秀な生徒達に恵まれて、良い明誠高校での生活を過ごすことができました。

明誠高校では 50 年間、御世話になりました。

これから益々発展することを、心より御祈りしています。富士山の麓より



夢のような経験

元教諭 谷田部 光則

創設 60 周年おめでとうございます。

私が明誠高校に保健体育の教員として勤務していたのは、昭和 49 年（1974 年）から平成 28 年（2016 年）までの 43 年間です。その間、沢山の出来事がありましたが、一番の思い出は、平成 9 年の第 69 回選抜高校野球へ出場した事です。野球部部長の坂本先生が入院したために前部長の長谷川先生が代理で行くことになり、その補佐役として、当時生徒会の副主任を担当していた私も急遽大阪に行きました。野球部より少し遅れて参加し、現地では裏方として練習会場へ先乗りし会場の準備や食事の手配などを行いました。そして一回戦豊浦高校に勝ち、校歌を聞くことができました。二回戦は報徳学園に敗れその翌日に選手と共に学校に帰りました。14 日間の夢のような出来事でした。

毎年 3 月になると甲子園の思い出が蘇ってきます。このような経験が出来たことに今も感謝しております。

■ 教員生活 10 年目を終えて

この 10 年間

教諭 新井 孝文

グラウンドが人工芝になり、校門から見える体育館に「日本大学明誠高等学校」の文字が入り、階段には電子掲示板が設置されました。私が初めて明誠高校に来てから、学校には様々な変化がありました。(…と言っても、私が知っているのはたったの 10 年分であり、明誠高校の歴史の 6 分の 1 でしかないと改めて感じます。) 文化祭や予餞会では生徒自身のアイデアが多く採用され、毎年工夫が凝らされています。何かに一生涯懸命になれることを経験している人は強くなると思います。高校生を見ていると、何かと忙しそうです。高校生活の 3 年間は、風のように過ぎていくと思います。私も教員として、その毎日が充実できるように支えていきたいと思っています。



更なる挑戦に向けた 10 年間

教諭 小泉 宏太

振り返るとこの 10 年間はまさに「激動の 10 年」であったと言えます。地震、台風、大雨、大雪、ウイルスなど自然災害が相次ぎ、IT や ICT, IoT はすっかり常識となりました。さらには大学の入試改革も行われるなど、高校教育を取り巻く環境も大きく変化しています。

その「激動の 10 年」の中で本校は遅しく、着実に前進をし、進化してきたと言えるのではないかと思います。進学実績が伸び、受験生が集まるようになり、大会で結果を残す部活動も増えています。ただそういう表面的なものだけではなく、目には見えない自信や手応えを得ることができたのもこの 10 年であったのではないかと感じています。

ここから 70 周年に向けた 10 年は、本校が更なる挑戦をするものになるのではないかとワクワクしています。



この 10 年間

教諭 山本 翔平

「現状維持は退化と同値」。これは 10 年前社会人になるにあたって恩師からかけられた言葉だ。これが自分のエネルギー源となり、折に触れてこのモットーに立ち戻る。

年度末になるとよく生徒に「自分を褒めてあげたいと思うことは何ですか？」と問いかけるが、自分自身にこの質問を投げかけるとしたら答えは「アップデートを止めなかったこと」だ。授業でも指導でもここ最近では生徒が「自分で気づける」ように意識して接している。そうすると一方的な発信ではなく、言葉のキャッチボールが繰り返されるようになった。一人ひとりの良さに自分も「気づける」機会が増えた。毎日、明日が来るのが楽しみになった。



■ 創設 50 周年記念式典

2010年10月23日(土)。

式典に先立って朝7時30分から在校生も参加して、校門前で学校名の刻まれた大きな御影石の石碑の除幕式が行われました。

3年生の藤原さんと高岡さんが横内正明山梨県知事、酒井健夫日本大学総長、田中英壽理事長、江口英雄上野原市長、山梨県私学文書課長および大山校長を会場となる多目的ホールまで先導して案内すると、式典が始まりました。

式典は大山校長の式辞、酒井総長の式辞、横内知事の祝辞、飯田生徒会長のあいさつと進み、校歌斉唱で終了しました。とても厳粛ですばらしい式典でした。

終了後、主賓のみなさんはMガーデンで茶華道部のお茶をお召し上がりになりました。明誠高校の気持ちの良い気候の中でのしばしのお茶会をお楽しみになれたと思います。

みなさんにはその後、体育館の祝賀会に移動していただきました。吹奏楽部の演奏と共に全員が集合、祝賀会が始まりました。中央には京王プラザホテル八王子のシェフが腕を振るった料理が用意されました。また、「同窓会・後援会ブース」が設置され、後援会、後援会OB、同窓会の方々約150人が手作りの料理を用意してくださいました。会場には、日大関係、山梨県関係や卒業生、旧教職員の方々が集い、明誠高校の創設50周年をお祝いしていただきました。

▼ 生徒リハーサル



▼ 校名碑序幕式



▼ 受付



▼ お出迎え



▼ 入場



▼ 式辞



▼ 酒井健夫総長（当時）



▼ 祝宴 田中英壽理事長による乾杯（祝宴）



▼ 祝宴 1



▼ 祝宴 2



▼ おもてなし



▼ 来賓の方々のお帰り



10年間の出来事

▼ 2010 多目的コート完成 (4月)



▼ 2011 洪水被害を受けたオーストラリアの人たちに千羽鶴を贈るためオーストラリア大使館を訪問しました (2月)



▼ 2011 震災直後の明誠 Twitter (3月)



▼ 2012 クライミング・ワールドカップのボルダリング部門、スロベニア・ログドラゴマー大会、オーストラリア・ウィーン大会とアメリカ大会に3年生山内誠さんが日本代表として出場 (4月)



▼ 2012 金環日食を観測 (5月)



▼ 2012 1年生尾島詩織さんグラススキー世界ジュニア選手権出場 (7月)



▼ 2012 山梨県高等学校英語暗唱弁論大会暗唱部門で1年北村優太さん 第3位 (11月)



▼ 2013 同窓会発足 50 周年記念祝賀会 (5 月)



▼ 2013 3 年生大澤佳心さん 全日本高校生選抜空手道選手権大会 16,17 歳無差別級優勝 (8 月)



▼ 2013 第 1 グラウンドの人工芝敷設工事がほぼ完了したことを受け、安全祈願祭が執り行われました (8 月)



▼ 2013 日大明誠高 野球部 50 周年記念式典 (11 月)



▼ 2013 2 年生尾島詩織さん グラススキー世界ジュニア選手権第 3 位



▼ 2014 卒業生が梅の植樹 (3 月)



▼ 2014 大雪で 1 週間学校が休校 (2 月)



▼ 2014 NTV 高校生クイズ特別大会が本校で開催される (5 月)



10年間の出来事

▼ 2014 文化祭でギネスチャレンジ。手をつないだ両腕の親指で1053人全員が一齐に5分間指相撲を行いました(9月)



▼ 2014 上野原市市制10周年で上野原を訪れた俳優の中村雅俊さんが「太陽学園」を訪れました(11月)



▼ 2015 生産工学部から贈られたニュートンのリンゴの木の子孫を植樹(7月)



▼ 2015 NTV 高校生クイズが昨年に引き続き本校で開催(5月)



▼ 2016 自然科学部 理工学部主催の「中学・高校ロボットコンテスト」で優勝(11月)



▼ 2017 3年金子孟史さん 社交ダンスで第37回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権に出場(10月)



▼ 2017 卒業記念品の桜の苗木を植樹(2月)



▼ 2018 JR上野原駅の南口広場の整備終了(4月)



▼ 2018 野球部 屋内練習場 鎮魂祭 (4月)



▼ 2018 いつも本校同窓生のみなさんがクリスマスの装飾をしてくださっています (12月)



▼ 2019 2年生石井遙斗さん JFA U-18 フットサル選手権大会で全国優勝 (8月)



▼ 2019 山梨県庁にてサッカー部全国出場報告 (12月)



▼ 2020 木田優夫さん来校 (1月)



▼ 2020 全生徒にマスクを配布 (5月)



▼ 2020 サーマルカメラによる検温開始 (6月)



▼ 2021 人工芝張り替え (2月)



国際交流

ケンブリッジ大学語学研修

▼ ケンブリッジ大学の授業の先生と (2012)



▼ ペンブルックカレッジ日本ルーム (2013)



▼ ケム川でパンティング (2013)



▼ 休み時間 (2013)



▼ 研修中の予定表 (2013)



▼ 行った人はみんな話題にするケンブリッジの「スーパードライ」 (2013)



▼ 市内散策で (2013)



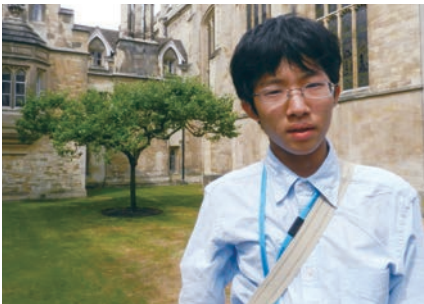
▼ 大学の教室の様子 (2013)



▼ 卒業式のガウンとキャップをつけて (2013)



▼ ニュートンのリンゴの木 (2013)



▼ バッキンガム宮殿前で (2013)



▼ 修了証をいただきました (2014)



▼ 他の付属高校・TAのみなさんと (2013)



▼ スポーツ大会後 (2014)



ニュージーランド語学研修

2007 年までいくつかの場所で行われていた海外語学研修ですが、2008 年にニュージーランド最大の都市オークランド郊外の町パクラにあるローズヒルカレッジに舞台を移しました。日本から出発する夏休みの時に現地の高校では授業が行われているので現地での高校生活を体験できるということと、現地の高校生と文化交流ができるためです。回を重ねる毎にプログラムが充実して軌道に乗り、信頼関係が築かれていた 2016 年、本校とローズヒルカレッジとの間で学術交流覚書が結ばれました。それを機会に一層の交流を深めるべく研修が行われています。

▼ 現地の学生と集合写真



▼ スクールバディと対面 (2014)



▼ スクールバディの授業に参加 (2019)



▼ ホストファミリーと対面 (2014)



▼ スポーツ交流でタッチラグビー (2013)



▼ ホストファミリーの家で (2014)



▼ ローズヒルカレッジの校門で (2011)



▼ さよならパーティーで (2013)



▼ さよならパーティーで習字 (2011)



▼ ホストファミリーとお別れ (2011)



▼ ロトルアにて 一時期最後にロトルアを訪れていた時期がありました (2012)



▼ ローズヒルカレッジとの協力関係を確認 (2013)



▼ 新校長同士によるローズヒルカレッジとの学術交流覚書の締結 (2016)



学校行事

入学式

▼ (2012)



▼ (2013)



▼ (2014)



▼ (2015)



▼ (2017)



▼ (2018)



▼ (2019)



▼ (2020)



生徒総会

▼ 生徒総会を生徒のみで運営しました (2016)



▼ 生徒総会みんな真剣に聞いています (2016)



球技大会

▼ 3年男子はサッカー (2012)



▼ 2年男子はバレーボール (2014)



▼ 3年女子はバスケットボール (2015)



▼ 試合前に円陣を組む3年男子 (2016)



▼ 1年男子はドッジボール (2018)



▼ 3年女子はバスケットボール (2019)



宿泊研修

▼ 宿泊研修 宿泊先近くの体育館で学年集会（2012）



▼ 宿泊研修 新しくできた友達との夕食（2013）



▼ 宿泊研修 クラス対抗の綱引き（2014）



▼ 各クラスに分かれてホームルーム（2015）



▼ 校歌の練習（2016）



▼ 宿泊研修みんなでカレーを作りました（2017）



▼ 友だちができました（2018）



▼ クラスでのホームルール（2019）



ケアンズ修学旅行

▼ 修学旅行説明会 (2011)



▼ グリーン島でグラスボトムボート (2012)



▼ グリーン島「日大明誠参上」 (2013)



▼ ヒルトンホテルでディナー (2017)



▼ グリーン島 (2016)



▼ 動物園でワラビーと戯れる生徒たち (2018)



▼ 成田空港出発 (2012)



▼ ラフティング (2012)



▼ グリーン島に向けて出発 (2014)



▼ 乗馬 (2015)



▼ コアラだっこ (2017)



▼ キュランダ高原鉄道有名なカーブ (2019)



▼ 引率教員のランチタイム (2012)



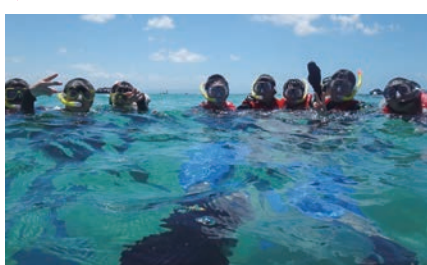
▼ 宿泊したレイクスケアンズで (2012)



▼ ジャブカイヤボリジナルカルチャーパークで (2015)



▼ グリーン島・シュノーケリング (2016)



▼ キュランダ高原鉄道ケアンズ駅で (2019)



誠祭 文化祭

▼ 模擬店の宣伝 (2012)



▼ お揃いのクラスTシャツ (2013)



▼ 坂本先生と生徒達 (2014)



▼ 壁画オープンと共に風船が空を舞う (2015)



▼ 本館前で写真撮影 (2016)



▼ オリンパスホールで誠祭を開催 (2017)



▼ ビブリオバトル (2018)



▼ パトカーに乗車できる催しも開催 (2019)



▼ グラウンドで記念撮影 (2020)



誠祭 体育祭

▼ 3年男子による騎馬戦 (2012)



▼ クラス対抗ムカデ競争 (2013)



▼ 女子生徒による棒引き (2014)



▼ 色別対抗の応援合戦 (2017)



▼ クラス対抗の大縄飛び (2020)



強歩大会

▼ 豚汁 (2012)



▼ みんなで準備体操 (2018)



▼ スタートと共に本館前の坂を下る (2014)



▼ チェックポイント (2016)



▼ のんびり組 (2019)



▼ 強歩大会 ゴールの瞬間 (2017)



卒業式

▼ 答辞 (2014)



▼ 教室で卒業証書を受け取る (2015)



▼ 担任と共に卒業生入場 (2016)



▼ 卒業証書は大人になった証 (2019)



■ 巨大壁画の 10 年間

2011 「生 ～いきる～」

壁画 16th



2012 「New Power Generation ～若き挑戦者たち～」 壁画 17th



2013 「Re:make ～人工芝はじめました～」

壁画 18th



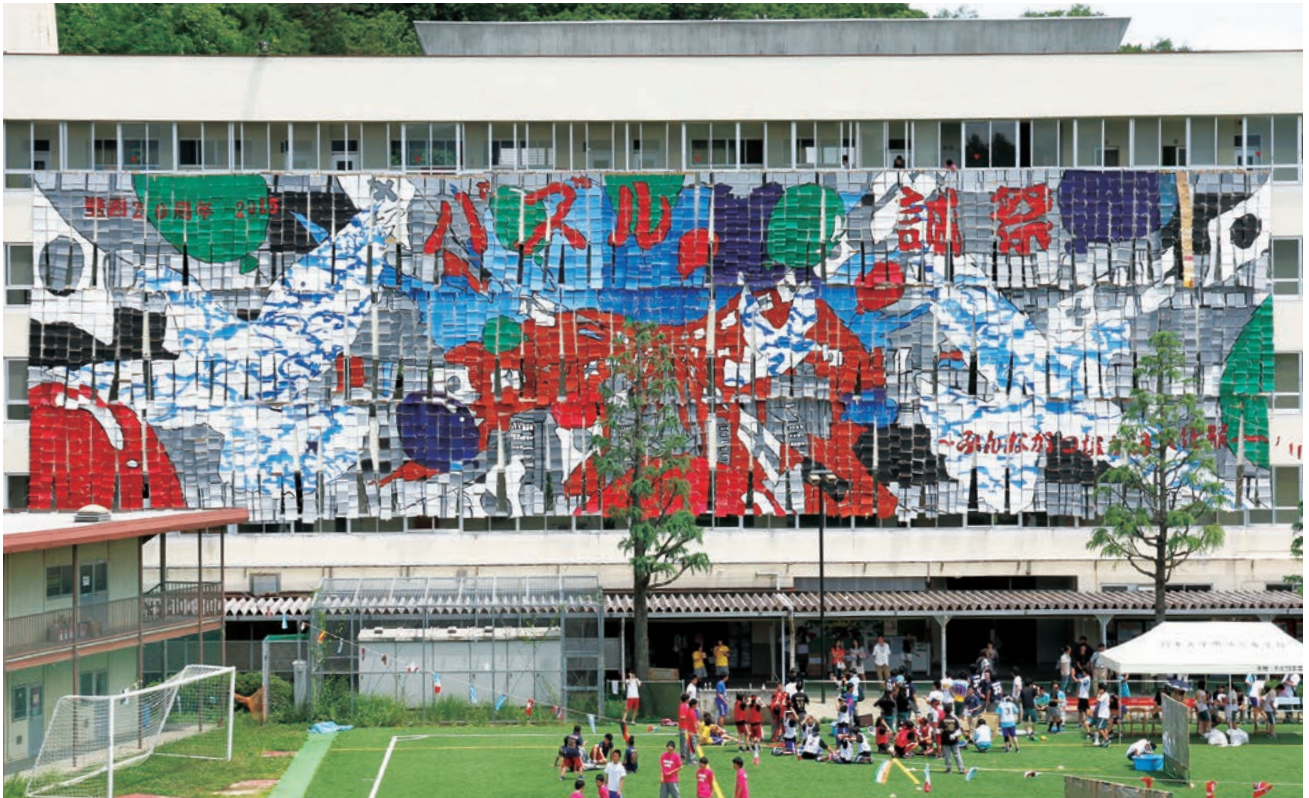
2014 「ぼくらの hungry 精神」

壁画 19th



2015「パズル ～みんなでつながる文化祭～」

壁画 20th



2016「百花繚乱 ～一人ひとりのハナを咲かせよう～」

壁画 21st



2017 「New Stage ～挑戦の舞台へ～」

壁画 22nd



2018 「明誠ツムツム ～我らのフィーバータイム～」

壁画 23rd



2019 「明誠レンジャー ～自分の色は何色だ～」

壁画 24th



2020 「あつまれ明誠の森 ～作ろう自分たちの島～」

壁画 25th



(敬称略)

2011

原作 / 卒業生 齋藤 敦志
38.0m × 10.8m / 段ボール 2700 枚

モノトーンで描かれた人の顔とそこから渦巻く髪の毛とも混沌の象徴ともとれる広がり。それとは対照的に色鮮やかに塗り分けられたウロコのような羽のような模様のコントラストが芸術的な作品。文字が一切書かれていない壁画には、絵としての迫力があり、この年の文化祭のテーマ「生～いきる～」をより強く感じる。文化祭は6月に開催されたが3か月前の3月11日には東日本大震災が発生し「生きる」ことについて多くの事を考えた時期であった。

2013

原作 / 3年 富山 隆太
34.2m × 10.8m / 段ボール 2430 枚

第1グラウンドが人工芝となって初めての文化祭が「Re:make～人工芝はじめました～」というテーマで行われた。鎖が巻き付いた手が伸ばす先には「現在」発「希望」行の切符。ここから明誠高校がどんどん良くなっていくのだ、というメッセージ性を感じる壁画となっている。残念ながら文化祭は台風の影響で2日目の朝、体育館でのクラスパフォーマンスを終えた時点で中止となってしまった。文化部の発表ができずに涙する部員や、大量の模擬店の材料を前に途方に暮れる3年生、悔しさをぐっとこらえて片付けをする実行委員などの姿が目には焼き付いている。

2015

原作 / 卒業生 手代木 春奈、2年 新田 潤一
41.8m × 10.8m / 段ボール 2970 枚

1996年に現在のおよそ4分の1の大きさ、白と赤の二色塗りで行った明誠高校文化祭の名物、巨大壁画20周年記念の年の作品。文化祭のテーマである「パズル～みんなでつながる文化祭～」にマッチしたそれぞれのピースをつなぎ合わせて作る巨大壁画は、この年2970枚の段ボールを使った。何らかの形で全校生徒が文化祭に参加できるように、との思いからはじまったこの企画が20年もの長きに渡って続き、伝統とはこのようにして作られていくのだと感じた年であった。左右に大きく描かれた鳩が飛び立つ様子は生徒の前途洋々たる未来を暗示しているようでもある。

2017

原作 / 3年 井上 新太
34.2m × 10.8m / 段ボール 2430 枚

前年度に引き続き和風のデザインが採用された。さわやかに晴れた青空を背景に、正義と勇気の象徴である赤の隈取が映えた歌舞伎役者と龍のイラストがダイナミックである。「New Stage～挑戦の舞台へ～」のテーマ決定と原案作成は同時並行で進められており、担当者には難しさもあったが最終的にうまくマッチした壁画となった。細部まで丁寧に描き込まれた龍の鱗などは特に、自分たちが塗った一つ一つのピースが組み合わせられて立派な形になる壁画の醍醐味を味わえたことだろう。

2019

原作 / 2年 岩尾 周治、2年 平尾 帆乃香
38.0m × 10.8m / 段ボール 2700 枚

「明誠レンジャー～自分の色は何色だ～」の文化祭テーマのもとに男子生徒と女子生徒の2名で原案考案を行った。原案作成にあたって2人の思い描いている絵を一つの絵に意見を出し合ってまとめるのが一番苦労したとのことである。壁画のコンセプトは「困難の先に」。どんなにつらい荒波にのまれても、それを乗り越える「海獣」のように、自分たちの目指す目標・目的地に向かって突き進んでいってほしいという思いを込めて描かれている。波の模様、くじらの目の色など細部にまでこだわって描き込まれていて見ごたえのある壁画である。

2012

原作 / 卒業生 田原 佳歩、
2年 安斎 明日香、上田 燎弥
38.0m × 10.8m / 段ボール 2700 枚

花が散らばる白と黄色の光を背景に、女の子とその手に乗った妖精が顔を近づけている非常にかわいらしい作品。「New Power Generation～若き挑戦者たち～」というテーマにぴったりの、若い力が漲るような明るく開放的な印象の壁画となっている。一見、幾何学模様の方が塗るのが難しそうだが、実際は人や文字の方がミスをしたときに目立ってしまうので塗る時に神経を使うのである。

2014

原作 / 3年 藤井 秀太
34.2m × 10.8m / 段ボール 2430 枚

鳥や虫、草花などの絵が、豊かな自然を感じさせる壁画になっている。一つ一つのモチーフが大きくしっかりと描かれていること、また白いペンキを使用した部分少ないこともあり、全体的にぎゅっと詰まった力強さがあり、例年以上に存在感を放っている。「ぼくらの hungry 精神」という文化祭のテーマも書かれているが、あえて文字は目立たせずに全体の統一感を大事にしている。

2016

原作 / 3年 佐藤 沙樹
38.0m × 10.8m / 段ボール 2700 枚

「百花繚乱～一人ひとりのハナを咲かせよう～」というテーマのもと、「和」のイメージを形にした巨大壁画である。原案は江戸時代に活躍した伊藤若冲の樹花鳥獣図屏風をモチーフにしている。壁画一面にコミカルで愛嬌のある数々の動物たちが描かれており、その明るく賑やかな画面はどこかのクラスがどの動物の描画・着色を担当することになっても楽しめるデザインになっている。また、完成した壁画を若冲の元の絵と見比べてみることで原画担当の生徒のアレンジを感じることができる。

2018

原作 / 2年 小島 七羽
38.0m × 10.8m / 段ボール 2700 枚

「Zen (禅)」と「Tangle (絡まる)」を組み合わせた造語「ゼンタングル」という画法を使用して考案された。この年のテーマは「明誠ツムツム～我らのフィーバータイム～」。何重にも重ねられた歯車のような模様によって生徒らの個性の連鎖が巧みに表現されている。たくさん色を使用しすぎることなく暖色系でまとめられており、一面花畑のような情景も感じさせる。線が多く繊細なデザインであるため、クラス単位で作業する際には指示、作業ともに難易度の高いものとなった。

2020

原作 / 3年 岩尾 周治、3年 平尾 帆乃香
38.0m × 10.8m / 段ボール 2700 枚

この年のはじめより続いた新型コロナウイルス感染症拡大の不安の中で開催された誠祭であった。安全性を考え文化祭の可否自体が直前まで検討されたものの、壁画に関しては感染対策をしながらもおおよそ行程の変更もなく例年通り無事完成された。「あつまれ明誠の森～作ろう自分たちの島～」というテーマのもと原案作成を担当したのは第60回と同じ2名の生徒である。大きな存在感のある鶴が描かれ、花札を模したような絵柄ははっきりとした線で縁取られ見やすい。大量の段ボールを組み合わせると遠目からみる壁画の特徴に向けたデザインといえる。

サッカー一部選手権大会出場

第98回全国高校サッカー選手権大会出場

監督 後藤 聡志

2019年11月9日(土)に行われた全国高校サッカー選手権大会山梨県予選決勝におきまして、日本航空高校を延長戦の末1-0で破り、優勝することができました。

全国大会出場ということで、多くの注目をされる中、グラウンドの中でも外でも選手たちは日々成長していきました。その姿をそばで見届けることができ、監督冥利に尽きる想いでした。それと同時に「全国大会」がいかに「夢の舞台」であるかということを感じました。

試合当日の2千人を超える応援団は今まで見たことのないものでした、ダンス・チア部、吹奏楽部をはじめ多くの生徒の応援は本当に感動しました。また、OB、保護者など関係者の方々の応援は選手たちの力になりました。残念ながら勝利することができず、申し訳ない気持ちでいっぱいですが、歴史を作ってくれた3年生の想いを胸に、後輩たちと共に必ずあの舞台へ戻って来れるよう強い意志を持って日々取り組んでいきたいと思えます。

また「全国高等学校サッカー選手権大会出場後援会」を設置していただき、賛助金へのご協力、出場までの運営面でのサポートなど、たくさんのご支援、ご協力本当にありがとうございました。

今後とも日大明誠高校サッカー部よろしくお願い致します。



予選

▼ 初戦



▼ 準々決勝



▼ 決勝



壮行会



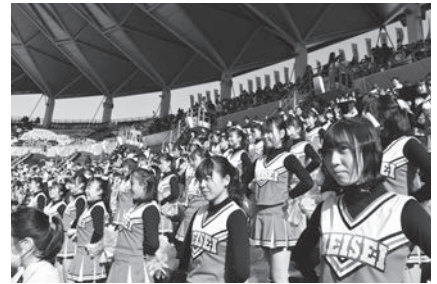
大会前夜



開会式 2019. 12. 30 駒沢オリンピック公園総合運動場



選手権 2019. 12. 31 フクダ電子アリーナ



■ ダンス・チア部全国大会出場

■ ダンス・チア部について

顧問 小泉 宏太

ダンス・チア部は本校 50 周年時には存在していなかった歴史の浅い部です。それでも学校関係者をはじめとするみなさんの支えもあって全国に名前の知られる部に成長することができました。

JリーグやBリーグ、プロ野球などのプロスポーツの場でのパフォーマンス、TV やCM など各種メディアへの出演、ポッキーCM コンテストでのグランプリなどいわゆる普通の高校生では体験できないような貴重な経験を積むことができました。コンテストにおいては 2019 年には関東大会優勝、全国大会第3位、2020 年には全国大会5位、オンラインコンテストでもグランプリをいただいております。

創部以来テーマにしている「一生もの」を生徒たちと築きつつ、これからも多くの方々に応援していただけるような部に成長していきたいと考えています。

▼ 第7回全国高等学校ダンス部選手権 全国第3位



▼ 東京ドームでチアダンス (2018)



▼ カンパيشェアハピ CM コンテスト グランプリ (2017)



本館のショーケース・ダンスチア部コーナー ▶

▼ HIGH SCHOOL DANCE COMPETITION 2019 関東大会優勝



▼ 第13回日本高校ダンス部選手権 全国大会



▼ 「日大明誠ダンス・チア部」主な活動実績

2013 創部

東京ドームチア 初出演

J1 ヴァンフォーレ甲府ハーフタイムショー 初出演

2014 Jリーグ国立競技場ラストマッチ 出演

2015 大学ラグビー決勝 出演

2017 カンパシエアハピ CMコンテスト グランプリ

ENEOSアジアプロ野球チャンピオンシップ2017 出演

Bリーグアルバルク東京 ハーフタイムショー 初出演

第5回日本ダンス大会 全国大会出場

2018 ポカリスエットCM出演

第6回日本ダンス大会 全国大会出場

2019 マイナビHIGH SCHOOL DANCE COMPETITION 2019

KANTO 優勝、FINAL 準優勝

第7回DANCE CLUB CHAMPIONSHIP

東日本予選 準優勝、全国大会 第3位

第12回DANCE STADIUM

関東予選A 準優勝、全国大会 15位

第55回テレビと生涯学習研究協議会 全国大会ゲスト出演

日本テレビ「News every.」出演

YBS山梨放送「てててTV」出演

ボーカルユニット「4年2組」LIVE 出演 (O-EAST)

NHK甲府「Newsかいドキ (月曜日「かいスポ」)」出演

「ダンスク!」取材記事掲載

FM FUJI「みらいterminal」出演

2020 マイナビHIGH SCHOOL DANCE COMPETITION 2020

EAST SPECIAL PRIZE

第8回DANCE CLUB CHAMPIONSHIP

全国大会第5位・avex ROYALBRATS賞

第13回DANCE STADIUM

関東予選B 第3位、全国大会 16位

オンラインコンテスト DANCE REC vol.0 優秀賞

MUSIC DAYS予選 最優秀賞、SHUVAN賞、FINAL グランプリ

dTVチャンネル番組 出演

TBS「あさチャン!」出演

運動部この10年

過去10年部活動実績 2011.4 (H23)～2021.3 (R3) までの部活動実績

<野球部>

H23.4 第63回春季関東地区高校野球山梨県大会 ベスト8
H24.9 第64回秋季関東地区高校野球山梨県大会 ベスト8
H25.4 第65回春季関東地区高校野球山梨県大会 ベスト8
H26.7 第96回全国高等学校野球選手権山梨県大会 ベスト8
H27.11 1年生大会 ベスト8
H28.4 第68回春季関東地区高校野球山梨県大会 ベスト8
H28.9 第68回秋季関東地区高校野球山梨県大会 ベスト8
H29.11 1年生大会 ベスト4
H30.11 1年生大会 ベスト8

<男子バスケットボール部>

H23.6 全国高校総体山梨県大会 ベスト8
H23.10 全国選抜優勝大会山梨県大会 ベスト8
R25.5 山梨県高校総合体育大会 3回戦
R3.1 関東新人大会山梨県大会 3回戦

<女子バスケットボール部>

H24.9 全国選抜優勝大会山梨県大会 2回戦
H25.6 全国高校総体山梨県大会 ベスト16
H29.6 全国高校総体山梨県大会 2回戦
H30.5 山梨県高校総合体育大会 2回戦

<卓球部>

H28.5 第68回山梨県高等学校総合体育大会春季大会(兼第66回関東高等学校卓球大会山梨県予選会) 男子学校対抗 第4位
H28.10 山梨県高等学校新人体育大会 男子学校対抗 第3位
H28.12 第20回関東高等学校新人卓球大会 男子 出場
H31.2 第46回全国高等学校選抜卓球大会山梨県予選 男子シングルス 小俣周平 第3位
R1.5 第71回山梨県高等学校総合体育大会春季大会(兼第69回関東高等学校卓球大会山梨県予選会) 男子学校対抗 第4位
R1.6 全国高等学校総合体育大会(兼第88回全国高等学校卓球選手権大会山梨県予選会) 男子学校対抗 第3位
R2.2 第47回全国高等学校選抜卓球大会山梨県予選 男子シングルス 小林純哉・永井陸登 第3位

<陸上競技部>

H23.10 国民体育大会 少年男子A100m 濱崎敬一 出場
H24.2 日本ジュニア室内陸上競技大阪大会 男子60m 濱崎敬一 出場
H25.10 国民体育大会 少年男子A400m 浅川裕亮 出場
H28.8 関東選手権 男子3000mSC 第7位 松永武康

<水泳部>

H25.6 山梨県高等学校水泳競技大会 男子総合第3位
H26.5 山梨県総合体育大会水泳競技大会 男子総合第3位
H26.6 山梨県高等学校水泳競技大会 男子総合第3位
H27.5 山梨県総合体育大会水泳競技大会 男子総合第2位
H27.6 山梨県高等学校水泳競技大会 男子総合第3位
H28.6 山梨県高等学校水泳競技大会 女子総合第3位
H29.6 山梨県高等学校水泳競技大会 女子総合第3位
R1.5 山梨県総合体育大会水泳競技大会 男子総合第3位 女子総合第3位
R1.6 山梨県高等学校水泳競技大会 男子総合第3位
H25～R1まで毎年 関東高等学校水泳競技大会 出場※R2は中止

<サッカー部>

H25.5 平成25年度県高校総体(関東大会予選) 第4位
H25.6 平成25年度全国高校総体予選 準優勝
H28.11 平成28年度第95回全国高校サッカー選手権大会山梨県予選 第3位
H29.5 平成29年度県高校総体(関東大会予選) 第3位

H29.8 平成29年度1年生大会 第3位
H30.6 平成30年度全国高校総体予選 準優勝
H30.8 平成30年度1年生大会 第3位
H30.11 平成30年度第97回全国高校サッカー選手権大会山梨県予選 第3位
R1.6 令和元年度全国高校総体 予選第4位
R1.8 令和元年度1年生大会 第4位
R1.11 令和元年度第98回全国高校サッカー選手権大会山梨県予選 優勝
R1.12 令和元年度第98回全国高校サッカー選手権大会 出場

<ソフトテニス部>

H24.6 全国高校総体県予選 男子個人 3回戦
全国高校総体県予選 女子個人 2回戦
H31.4 山梨県高校総合体育大会 男子個人 3回戦
山梨県高校総合体育大会 女子個人 2回戦
R1.5 山梨県高校総合体育大会 男子団体 2回戦

<男子バレーボール部>

H26.5 山梨県高校総合体育大会 2回戦
H28.6 全国高校総体県予選会 2回戦
H29.10 全日本バレーボール高等学校選手権大会山梨県予選 2回戦
H30.6 全国高校総体県予選会 2回戦
R1.5 山梨県高校総合体育大会 2回戦
R2.10 全日本バレーボール高等学校選手権大会山梨県予選 1回戦

<女子バレーボール部>

H24.5 山梨県高校総合体育大会 2回戦

<ハンドボール部>

H28.5 山梨県総合体育大会 第3位 関東大会 出場
H28.6 関東大会 出場
H28.10 新人大会 第3位
H30.6 インターハイ予選 第3位
H30.12 全国選抜山梨県予選 第3位
R1.8 山梨県夏季体育大会 第3位
R2.10 新人大会 第4位

<剣道部>

H24.5 山梨県高等学校総合体育大会 第5位
H24.6 関東高等学校剣道大会 女子団体戦 出場
H28.6 全国高等学校総合体育大会山梨県予選 男子団体戦 第5位
H29.8 大月市市制62周年記念大会 男子個人 第2位
大月市市制62周年記念大会 女子個人 優勝
R1.10 新人大会 男子団体 第6位

<ウエイトリフティング部>

H28.5 山梨県高校総合体育大会 出場

<ラグビー部>

H29.11 平成29年度全国高等学校総合体育大会第97回全国高等学校ラグビーフットボール大会山梨県予選 第3位
H31.1 平成30年度第19回関東高校ラグビーフットボール新人大会山梨県予選 準優勝
H31.2 平成30年度第19回関東高校ラグビーフットボール新人大会 初出場
H31.5 平成31年度山梨県高等学校総合体育大会第67回関東高等学校ラグビーフットボール大会山梨県予選 第3位
R1.11 令和元年度全国高等学校総合体育大会第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会山梨県予選 第3位
R2.1 令和元年度関東高等学校ラグビーフットボール新人大会山梨県予選 第3位
R2.10 令和2年度全国高等学校総合体育大会第100回全国高

等学校ラグビーフットボール大会山梨県予選 同2位 (抽選)

R3.1 令和2年度関東高等学校ラグビーフットボール新人大会山梨県予選 第3位

<空手道部>

- H23.6 関東大会 個人形 第3位 関根凌也
団体組手 出場
- H23.8 インターハイ 個人形 第5位 関根凌也
- H24.6 関東大会 団体組手 出場
- H27.6 関東大会 団体組手 出場
- H28.6 関東大会 団体組手 出場
- H29.6 関東大会 団体組手 出場

<スキー部>

- H24.2 平成23年度全国高等学校スキー大会(山形県蔵王温泉スキー場) 女子大回転・回転 出場
 - H25.2 平成24年度全国高等学校スキー大会(北海道サッポロテイネススキー場) 女子大回転・回転 出場
 - H26.2 平成25年度全国高等学校スキー大会(福島県猪苗代スキー場) 男子大回転・女子大回転・女子回転 出場
平成25年度国民体育大会冬季大会スキー競技会(山形県蔵王温泉スキー場) 少年女子アルペン 出場
 - H27.2 平成26年度全国高等学校スキー大会(秋田県花輪スキー場) 女子大回転・女子回転 出場
3年尾島詩織 回転30位、3年山田紗也 回転58位
平成26年度国民体育大会冬季大会スキー競技会(群馬県ホワイワールド尾瀬岩鞍) 少年女子アルペン 出場
 - H29.2 平成28年度全国高等学校スキー大会(群馬県スノーパーク尾瀬戸倉) 女子大回転・女子回転 出場
 - H30.2 平成29年度全国高等学校スキー大会(岐阜県ほおのき平スキー場) 女子大回転・女子回転 出場
 - H31.2 平成30年度全国高等学校スキー大会(秋田県花輪スキー場)
男子大回転・男子回転・女子大回転・女子回転 出場
平成30年度国民体育大会冬季大会スキー競技会(北海道サッポロテイネススキー場)
少年男子アルペン 出場
 - H31.3 平成30年度全国高等学校選抜スキー大会(長野県志賀高原ジャイアントスキー場) 女子大回転 出場
 - R 2.2 令和元年度全国高等学校スキー大会(新潟県赤倉温泉スキー場) 男子大回転・女子大回転・女子回転 出場
令和元年度国民体育大会冬季大会スキー競技会(富山県たいらスキー場)
少年男子アルペン・少年女子アルペン 出場
 - R 3.2 令和2年度全国高等学校スキー大会(長野県戸狩温泉スキー場) 女子大回転・女子回転 出場
 - R3.3 令和2年度全国高等学校選抜スキー大会(長野県志賀高原ジャイアントスキー場)
女子大回転・女子回転 出場
- 2011.4 (H23)~2020.3 (R2) まで毎年男女ともに関東大会出場

<バドミントン部>

- H 26.6 平成26年度関東高等学校バドミントン大会
男子団体 出場
- H 28.6 平成28年度関東高等学校バドミントン大会
男子団体 出場
- H 29.5 山梨県高校総合体育大会 男子団体 第3位
- R 1.8 県高校1.2年生大会
1年男子シングルス 佐藤秀飛 優勝
県高校1.2年生大会
1年女子シングルス 藤下瑠香 優勝

<硬式テニス部>

- H23.8 県高校学年別大会 1年男子 井上 勇人 優勝
- H29.5 県高校総体 男子団体 第4位 女子団体 第4位
- H30.6 関東大会 男子団体 出場
- H30.8 県高校学年別大会 1年男子 田村 朗 優勝
- R1.6 関東大会 男子団体 出場
- R1.8 県高校学年別大会 2年男子 田村 朗 優勝

R1.12 関東選抜大会 男子団体 第13位

<体操同好会>

- H27.6 関東大会(神奈川大会)
男子個人 大和田隼風、女子個人 二浦純奈 出場
- H27.8 インターハイ(大阪) 男子個人 大和田隼風 出場
- H28.6 関東大会(東京)
男子団体 大和田隼風・人見優也・宮原颯太 出場
女子個人 二浦純奈 出場
- H28.8 インターハイ(島根) 男子個人 大和田隼風 出場
- H29.6 関東大会(茨城) 男子個人 間宮亮介 出場
- H30.6 関東大会(群馬) 男子個人 間宮亮介 出場
- R1.6 関東大会(千葉) 男子団体 小畑嵩・高井太一・板橋将気・板橋将泰 出場

(敬称略)

■ 野球部

▼ 春 日川高校戦(2018)



▼ 夏 勝って校歌を歌う(2014)



■ 男子バスケットボール部

▼ 日大大会 接戦を勝ちました!



▼ 県大会 試合後、頑張りました。



■ 女子バスケットボール部



◀ ウィンターカップ予選 新チーム初勝利 (2020)



◀ 夏休みOG会 (2018)

運動部この10年

卓球部

令和元年度全国高等学校総合体育大会「卓球競技」山梨県予選
(兼 令和元年度山梨県高等学校卓球選手権大会)
男子学校対抗 第3位 (2019) ▼

▼ 第20回関東高等学校新人卓球大会
出場 (2016)



陸上競技部

▼ 関東高校陸上 3000m sc
(2016・7月)

▼ 関東高校陸上 4×400mリレー
(2016・7月)



サッカー部



◀ インターハイ
予選準優勝
(2018)



◀ 第95回全国
高校サッカー
選手権大会
山梨県予選第3
位 (2018)

ソフトテニス部

新人大会・個人 (2017・9月) ▼

▼ 新人大会・個人 (2016・9月)



男子バレーボール部



◀ 関東私学大会
(2016・7月)



◀ インターハイ
予選
(2019・6月)

女子バレーボール部

▼ OG 戦

▼ インターハイ予選



ハンドボール部



◀ 関東大会出場
(2016・6月)



◀ インターハイ
予選第3位
(2018・6月)

剣道部



◀ 春送別会
(2016・3月)



◀ 郡内大会にて
入賞した本校
生徒たち

ラグビー部



◀ 国際交流試合 (2018・オーストラリア)



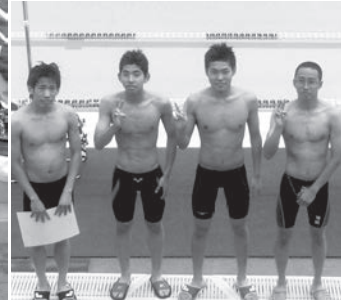
◀ ラグビーファミリー三送会 (2018)

水泳部



◀ 山梨県新人大会 (2013)

▼ 関東予選大会 関東出場決定



ウェイトリフティング部



◀ 恩師の檜垣先生と

本校のOBでありウェイトリフティング男子日本代表監督の小宮山哲雄氏来校 (2016・9月)



空手道部



◀ 第 45 回 関東高等学校空手道大会 (2016・6月)



◀ 櫻空杯 (2017・2月)

スキー部

▼ 全国高等学校スキー大会 男子 GS 75 位 大久保海さん (2015・2月)

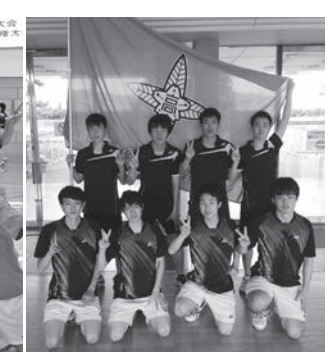
▼ 全国高等学校スキー大会 女子 SL 58 位 山田紗也さん (2015・2月)



バドミントン部

▼ 第 60 回記念大会 関東高校バドミントン大会 初出場 (2017)

▼ 第 62 回関東高校バドミントン大会出場 (2016)



硬式テニス部



◀ 集合写真 (2016)

サーブを打つ 関東大会出場選手中島将太さん ▶



体操同好会



◀ インターハイ跳馬 (2016・島根)



◀ 県総体の写真 (2016) 男子団体、女子個人関東大会 (東京) 出場 男子個人インターハイ (島根) 出場

文化部この10年

自然科学部

▼天体観測 夏合宿 (2018)



▼天体観測 夏合宿 (2018)



▼天体観測 夏合宿 (2018)



音楽部

▼ハロウィンライブ (2018)



▼校内ライブ (2019)

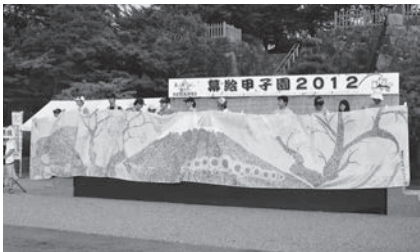


▼文化祭 (2020)



美術部

▼富士の国やまなし国文祭幕絵甲子園
「NHK 甲府放送局賞」(2012)



▼NU祭「奨励賞」
手代木 春菜さん (2013)



▼NU祭「優秀賞」
若林 明日香さん(2017)



▼増田誠大賞展「教育長奨励賞」
金光 七海さん (2018)



文芸部

▼文化祭 (2020)



▼文化祭 (2019)

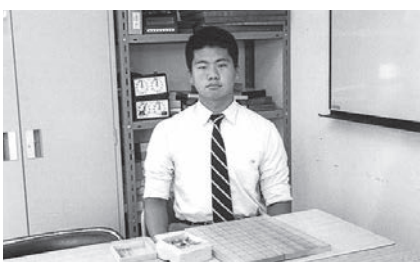


ダンス・チア部

▼DANCE STADIUM (2020)



囲碁将棋部



◀ 第39回高等学校総合文化祭滋賀大会出場
千葉 匠さん (2015)

▼夏合宿 (2018)



吹奏楽部

▼ 山梨県吹奏楽コンクール (2013)



▼ 吹奏楽部員 集合写真 (2020)



▼ 吹奏楽部の軌跡

- 2011.1 山梨県管打楽器ソロコンテスト
木管部門 第1位 高尾 健太郎
- 2011.1 山梨県管打楽器ソロコンテスト
金管部門 第3位 山田 瑛奈
- 2011.2 関東甲信越支部中学生・高校生管打楽器
ソロコンテスト 出場 高尾 健太郎
- 2011.8 山梨県吹奏楽コンクール
高校 B 部門 金賞
- 2012.8 山梨県吹奏楽コンクール
高校 B 部門 金賞
- 2013.8 山梨県吹奏楽コンクール
高校 B 部門 金賞 (県代表)
- 2013.8 西関東吹奏楽コンクール
高校 B 部門 銅賞
- 2016.2 山梨県管打楽器ソロコンテスト
金管部門 第3位 柿崎 玲奈
- 2020.11 山梨県高等学校芸術文化祭 優秀賞

写真部

▼ 江藤 圭吾さん
(2012・全国高総文祭とやま)



▼ 木村 聡一郎さん
(2013・長崎しおかぜ総文祭)



▼ 清野 美乃莉さん
(2018・信州総文祭)



▼ 写真部の軌跡

- 2012 江藤 圭吾 全国高等学校総合文化祭富山大会 出品
- 2013 木村聡一郎 全国高等学校総合文化祭長崎大会 出品
- 2014 組澤 誠人 関東地区高等学校写真展山梨大会 奨励賞
- 2015 窪田 有希 関東地区高等学校写真展栃木大会 奨励賞
- 2016 窪田 有希 関東地区高等学校写真展千葉大会 優秀賞
- 2017 清野美乃莉 山梨県高等学校芸術文化祭 芸術文化祭賞
- 2018 清野美乃莉 全国高等学校総合文化祭長野大会 出品
関東地区高等学校写真展群馬大会 奨励賞
- 間宮 優介 関東地区高等学校写真展群馬大会 奨励賞
- 濱田 依里 関東地区高等学校写真展群馬大会 奨励賞
- 2019 石塚 昂太 FUJIFILM 5万人の写真展
「心に響いた100選」入選

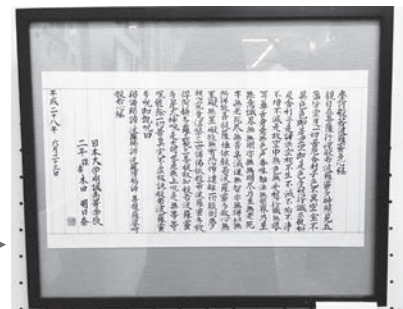
(ともに敬称略)

書道部



◀ 左 芸術文化祭 (2016)
1年 橋本珠萌さん

◀ 中 芸術文化祭 (2017)



▶ 芸術文化祭 (2016)
2年 木田明日奈さん作品

茶道・華道部

▼ 文化祭 (2020)



▼ 文化祭 (2015)



▼ 文化祭 (2015)



家庭科部

▼ クリスマスケーキ (2017)



▼ クリスマスケーキ (2018)



▼ 桂台イベント (2019)



この10年間の振り返り

教務部

この10年間で、2学期制から3学期制への変更やカリキュラム変更、土曜日の授業開始など明誠の内部も変化してきました。期末考査後はクラスでの答案一斉返却を始め、効率的にテスト返却をしています。成績不振者に対して学期末に補習をすることで、細やかな指導ができ、学年末の進級判定が円滑になった印象です。有事の際には生徒・保護者への連絡一斉配信を取り入れ、迅速に連絡ができるようになりました。今後は、ICT教育にも着手し、授業も大きく変化していくと考えております。

▼ 特待生奨学生授与式 (2012)



▼ 新クラス発表 (2013)



▼ 毎年発行する学校要覧は教務部作成



▼ 教育実習生の授業 (2019)



▼ iPad が教職員に導入される (2019)



▼ 新型コロナウイルス感染症による臨時休校においてオンラインでHRを実施する (2020)



▼ 電子黒板を使用した授業が実施される (2018)



芸術鑑賞教室

「一流の劇場で、一流の芸術を鑑賞する」という合い言葉で平成5年よりスタートした「芸術鑑賞教室」。27回目まで回を重ねてきました。この10年間は生徒たちにも好評な“ミュージカル”が演目として多かったことが特徴です。

回	年	内容	場所
19回	2011年	ミュージカル「ライオンキング」	四季劇場
20回	2012年	ミュージカル「シャボン玉とんだ 宇宙までとんだ」	ル テアトル銀座
21回	2013年	ミュージカル「レ・ミゼラブル」	帝国劇場
22回	2014年	演劇「ラリー ぼくが言わずにいたこと」	たましんRISURUホール
23回	2015年	ミュージカル「エリザベト」	帝国劇場
24回	2016年	ミュージカル「リトルマーメイド」	四季劇場
25回	2017年	ミュージカル「ブッダ」	めぐろパーシモンホール
26回	2018年	サーカス・エンターテインメント「キュリオス」	お台場ビクトップ
27回	2019年	ミュージカル「パリのアメリカ人」	KAAT 神奈川芸術劇場
28回	2020年	新型コロナウイルス感染防止のため中止	

▼ 2011「ライオンキング」



▼ 2018「キュリオス」



進路指導部

進路について

この10年間で進路における状況も大きく変化しました。大学入試改革によって、センター試験が大学入学共通テストとなり、AO入試も総合型選抜となっています。そして本校にとっては日本大学の進学システムの変更は特に影響の大きいものとなりました。

これらの変化に学校として対応できるのだろうかという危機感は教職員の中にもはっきりあったと思います。それでも学校が一丸となって一つひとつに丁寧に対応した結果、日大進学率は例年70%前後、大学進学率も90%以上で安定しており、基礎学力到達度テストの標準化点は毎年過去最高を更新しています。今後はICT化を進めながらより個別最適化した進路指導をしていく考えです。

時代がどのように変化したとしても、自分をしっかりと表現できる人間力の養成をめざしていきます。

▼ 文理学部体験授業 (2012)



▼ 標準学力テスト (2013)



▼ 1年生進路講演会 (2013)



▼ 3年生合宿セミナー (2016)



▼ 1,2年生 基礎学力到達度テスト (2016)



▼ 基礎学力到達度テストに向けた放課後講習 (2016)



▼ 日本大学の各学部に訪問 (2017)

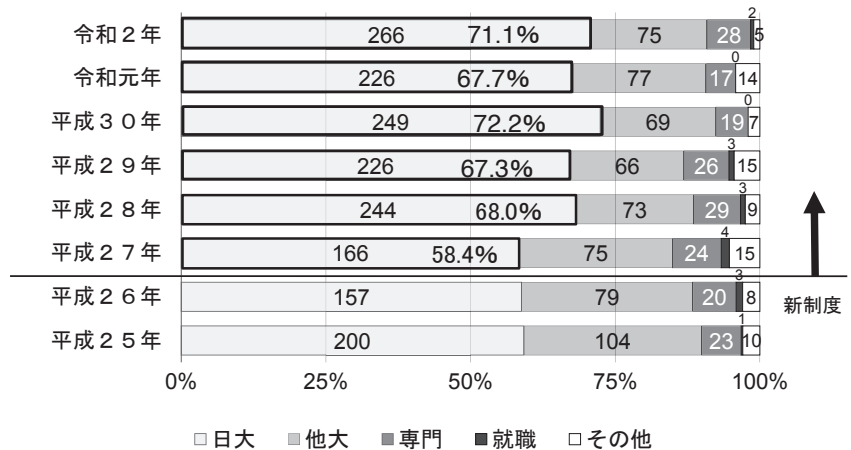


▼ キャリアガイダンス (2018)



進路状況年度推移

令和3年3月31日現在



この10年間の振り返り

生活指導部

▼ 青少年の非行・被害防止市民大会に毎年参加 (2011)



▼ 立門指導 (2011)



▼ 立門指導 (2013)



▼ 初めてのシェイクアウト訓練 (2016年11月4日)



▼ 風紀委員と駅指導 (2013)



▼ 避難訓練 (2019年9月)



▼ 2011年に作成された制服着用模範写真 (2020年度も使用されています)



防災訓練

	日付	備考
2011年	6月23日	
	9月1日	
2012年	天候不順のため中止	
2013年	10月30日	9月に配付した防災頭巾初めて使用
2014年	9月26日	
2015年	9月1日	
	5月26日	
	9月15日	抜き打ち
2016年	11月4日	公式シェイクアウト訓練
	5月25日	
	6月4日	ショート
2017年	6月30日	ショート
	9月14日	抜き打ち
	5月29日	
2018年	6月27日	ショート
	7月5日	ショート
	9月11日	抜き打ち
2019年	5月28日	
	7月5日	ショート
	9月27日	抜き打ち
2020年	新型コロナウイルス感染防止のため中止	

■ 図書部

先生方の研鑽のためにそれぞれの先生が研究された結果をまとめた「研究紀要」。教員の仕事が年々増加し研究を行う時間も限られる中、それでも定期的に2年に1回のペースで発行されてきました。

■ 研究紀要 第34巻 平成24(2012)年3月

明誠高校における学年運営の一例	英語科	大桃 淳
『特殊相対性理論』解説	理科	高橋 勝也
明誠高校の池にホテルを	理科 自然科学部顧問	岩上 愛
「国民」不在の時代における国家機構	地歴・公民科	後藤 明仁

■ 研究紀要 第35巻 平成26(2014)年3月

山田風太郎「眼中の悪魔」論	国語科	小泉 宏太
素数に関する発展事項及びフェルマーの最終定理	数学科	黒川 雄樹
リーディングの主要目的としての内容理解	英語科	小林 泰一

■ 研究紀要 第36巻 平成28(2016)年3月

「首相談話」に関する一考察	地歴公民科	金田 真幸
古き良き時代の数学文化	数学科	松崎 一寿
「体幹トレーニング」の意義とその効果	保健体育科	後藤 聡志

■ 研究紀要 第37巻 平成30(2018)年3月

思想の境界と教育 — 「お化けの世界」発表の背景を軸に—	国語科	山内和貴子
インプット仮説を応用した語力強化について	英語科	伊藤 悠
生物進化から生物多様性を考える	理科	新井 孝文

■ 研究紀要 第38巻 令和2(2020)年3月

ヨーロッパにおける歴史的文化財に対する一考察	地歴・公民科	松嶋 暢夫
「正接の平方和」に関する性質	数学科	黒川 雄樹
GTEC のスコアを活用し、生徒の能力を見つめ、 今後の課題について考える	英語科	伊藤 悠

(敬称略)

図書室利用状況

年度	蔵書数(冊)		視聴覚教材(巻)	貸出冊数(冊)	来室者数(のべ)(人)
	資産図書	消耗図書	DVD		
2010年	12,796			859	1,905
2011年	4,808	7,499	443	517	1,290
2012年	4,874	7,853	446	696	1,454
2013年	4,882	8,171	446	821	992
2014年	4,900	8,723	449	704	1,179
2015年	4,918	9,309	463	996	1,150
2016年	4,935	9,812	483	938	1,162
2017年	4,969	9,943	496	930	1,333
2018年	4,997	10,145	396	868	1,313
2019年	4,973	10,492	411	575	1,008

- ・平成23年度9月に図書システムを導入し図書のバーコード管理を行う。
- ・平成23年度に図書システムを導入するにあたり図書の整理を行ったため、除籍図書が多かった。
- ・2019年度の資産図書が減少しているのは、購入図書より除籍図書の冊数が多かったため。

▼ 研究紀要

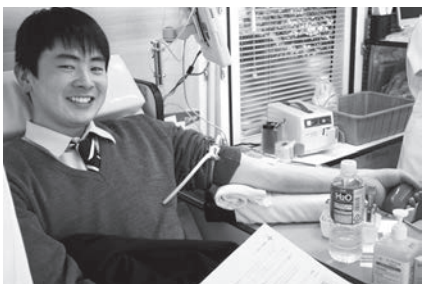


■ この10年間の振り返り

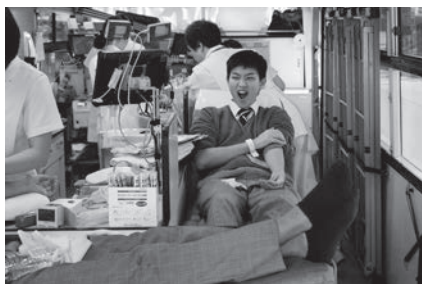
■ 保健衛生部

献血活動

▼ 2017



▼ 2018



▼ 厚労相から表彰されました (2017)



AED講習

▼ 2016



▼ 2017



▼ 2017



校内外美化活動

▼ 2016



▼ 2018



▼ 2020



生徒健康診断

▼ 2016



▼ 2019



▼ 2020



保健室利用状況

(延べ人数)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
けが	185	267	185	298	390	390	193
病気	419	541	628	815	987	602	415
保健室登校	0	0	0	0	0	0	0
健康相談	31	16	37	23	21	6	1
その他	19	19	56	89	204	41	57
合計	654	843	906	1225	1602	855	666

■ 生徒会指導部

【生徒会本部役員活動】

生徒会本部役員は会長、副会長を中心に学校行事の企画立案・運営を行っています。この10年で年々自ら色々と考えて行動できる生徒が増え、生徒会活動が活発になってきています。地域との交流も積極的に行い、文化祭では名物品の販売なども行いました。

【NU祭】

NU祭は、日本大学全16学部と通信教育学部及び付属高校26校の絆を深めるために始まった全学文化行事です。高校生が参加するものとしては「NU祭総合開会式」「日本大学体育大会(附属大会)」「絵画・書道展」「付属高校生サミット」「エヌドット募金」「NU祭ビデオ発表会」「NU祭総合閉会式」があります。また、NU-Kという関東近県の付属高校の生徒会が集まり、各校の行事の様子や生徒会の活動内容・運営方法などを報告したり、各校が抱える問題について話し合う集まりを、年に3~4回行っています。

▼「南関東総体(インターハイ)2014」に向けて全校でのミサガ作り(2014・5月)



▼ NU-Kを明誠で開催(2015・12月)



▼ NU-K 集合写真(2015・12月)



▼ 高校生サミットの報告(2015・11月)



▼ 生徒総会 議長団(2016・5月)



▼ 生徒総会 生徒の様子(2016・5月)



▼ 地域交流 永井の酒饅頭(2017・6月)



▼ 付属大会 水泳(2017・6月)



▼ 地域交流 上野原B級グルメ「せいだのたまじ」(2019・6月)



歴代 生徒会長・副会長

(敬称略)

	会長	副会長	副会長		会長	副会長	副会長
第51期	飯田 捷人	千徳 沙耶香	■■■■	第57期	志村 裕樹	杉本 莉香	若林 明日香
第52期	長谷川 真子	内野 拳人	長谷川 翔	第58期	若林 明日香	遠西 弘明	日野 寿隆
第53期	内野 拳人	白神 翔也	小倉 美紘	第59期	日野 寿隆	小川 瑠璃	飯田 航輝
第54期	奥村 周	北村 優太	永井 沙呼	第60期	飯田 航輝	矢島 優希	齋藤 小夏
第55期	北村 優太	永井 沙呼	野崎 優司	第61期	佐藤 颯真	植村 海月	佐藤 暉
第56期	野崎 優司	坂本 陸	志村 裕樹	第62期	星野 薫	佐藤 暉	梶浦 大暉

■ この10年間の振り返り

■ 入試委員会

▼ 推薦入試(2017)



▼ 制服ミニチュア



▼ 第1回一般入試(2018)



▼ 中学校の先生の入試相談(2014)



▼ 中学校訪問(2011)



▼ 入試説明会(2011)



▼ 入試説明会で生徒の活動紹介(2011)



▼ 入試説明会受付の様子(2011)



志願者、入学数等の推移

(人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
志願者	667	890	806	769	775	818	661	699
入学者	292	373	345	358	343	392	353	382

広報部

広報部は本校における各種教育活動やそれに関連した情報を収集したり、校内外に情報発信を実施しています。入試委員会と連携して入試の情報伝達や宣伝活動も行っています。

主な媒体 (メディア)

インターネットによるもの: 公式ウェブサイトおよびそのコンテンツ関連ページ、本校紹介動画、エデュログ、インターネットによる本校 PR ページ作成協力、など (本校紹介動画は 2017 年までは DVD を媒体にして作成していましたが、それ以降はネット配信に絞っています)。

紙媒体: 学校案内、ポスター、その他本校 PR 広告の作成、日本大学広報部・日本大学新聞社の出版物への協力、など。

その他: 入試委員会と連携して、進学塾入試相談会や中学校の進学説明会などに参加。渡辺麻友さんの制服企画にうまく参加できて、テレビの情報番組にも本校の制服が露出しました。レコード会社からいただいたポスターは入試説明会などで大活躍でした。

▼ AKB48 渡辺麻友さんのシングルレコードカップリング曲の企画で本校の制服を着用。これは本校の制服を着た渡辺さんの写真がついた販促ツール (秋葉原の CD 店で・2012)



▼ 上野原市市制 10 周年で出した本校 PR 広告 (2016)



▼ オープンスクールファイナルのチラシ (2018)



▼ 吹奏楽部定期演奏会ポスター ▼ 広報部が作成した学校 DVD 7 年分制作 (2020)



▼ 上野原市暮らしの便利帳に載った本校の PR 広告 (2017)



▼ 広報部が発行する学校案内を 10 年分集めてみました



▼ 教育旅行雑誌で本校が取り上げられる (2010)



▼ 進学塾の雑誌に掲載 (2019)



■ 教員の海外研修

日本大学は教員に対して学術の研究、国際交流及び大学の発展に資するため海外研修の制度を設けています。この10年間の海外研修出張者は下記の通りです。

教員海外研修一覧表

(敬称略)

年度	種類	氏名	研究題目
2011	短期 B	梅田 祐 司	欧州の史跡・文化財の視察（歴史の授業との関係を中心に）
2012	短期 B	松 嶋 暢 夫	西ヨーロッパにおける歴史的文化財の研究
2013	短期 B	中 川 正 基	欧州の教育事情の研究
2014	短期 B	菅 原 由紀子	欧州諸国の文化・教育事情視察と近代日本文学の足跡の探求
2016	短期 C	山 下 雄一郎	アメリカ文学と文化に関する調査
2017	短期 B	金 田 真 幸	欧州諸国の史跡及び文化財に関する研究
2018	短期 B	長 島 澤	欧州諸国の児童書及び日本文学に関する研究
2019	短期 B	大 畑 真 人	フィボナッチ数列、黄金比に関する研究
2020			新型コロナウイルス感染症拡大のため実施されず

▼ 2011年 梅田祐司
チヴィタヴェッキア（イタリア）



▼ 2012年 松嶋暢夫
グリニッジ（イギリス）



▼ 2013年 中川正基
ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学(ドイツ)



▼ 2014年 菅原由紀子
森鷗外記念館（ドイツ）



▼ 2016年 山下雄一郎
七破風の家（アメリカ）



▼ 2017年 金田真幸
シーボルトハウス（オランダ）



▼ 2018年 長島 澤
アンデルセンの像（デンマーク）

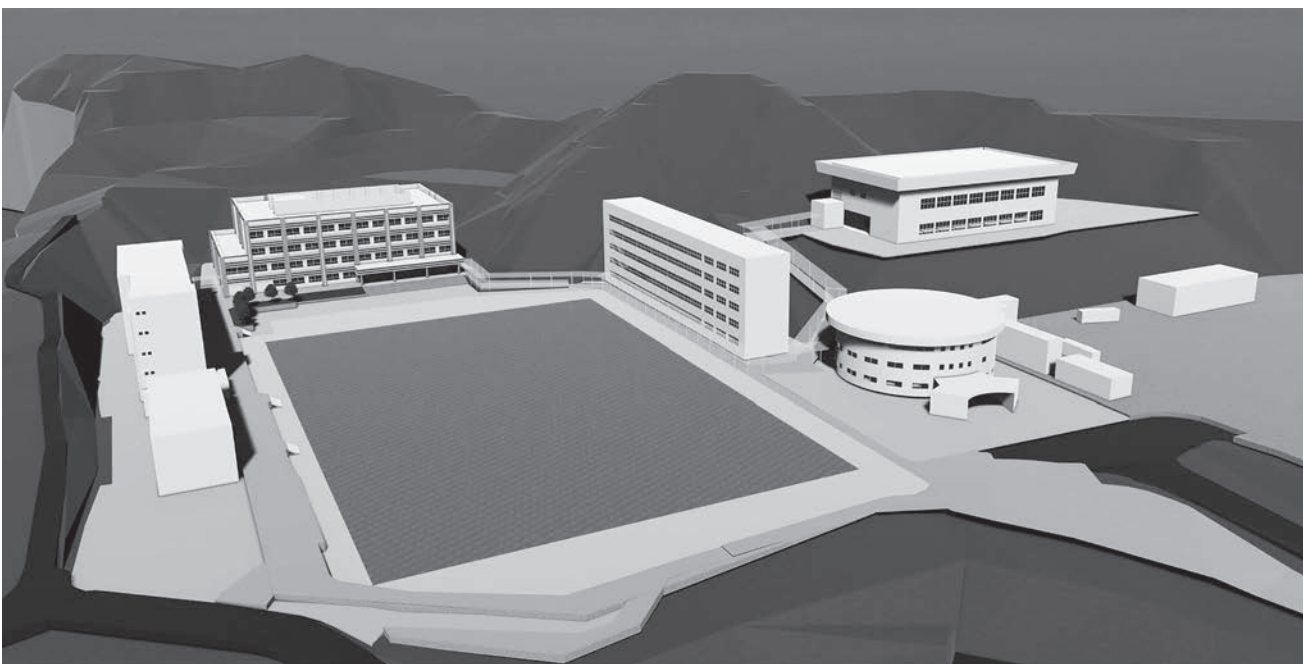


▼ 2019年 大畑真人
ダヴィンチ博物館（イタリア）



■ ■ 新校舎（完成予想図）

令和6年度の供用開始に向け、現在検討している新校舎です。地域の特性に鑑み、『ひと×ひと』、『ひと×知』、『学校×自然』の3つのコンセプトを定め、生徒たちが楽しく学習・課外活動を行なうことができ、教職員にとっても働きやすい校舎となることを目指します。



※基本設計時点のイメージであるため、完成と大きく変更になることもあります。

平成 27 年度		1 学年主任 山下雄一郎			2 学年主任 大森 康勝			3 学年主任 金箱 信		
	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組	8 組	9 組	10 組
1 年	特進 高橋 勝也	特進 山本 翔平	山内和貴子	八幡 健斗	水越日出夫	檜垣 英治	阿部 栄祐	梅田 祐司	菅原由紀子	
2 年	特進文 金田 真幸	特進理 長島 澤	理 西島 泰明	理 黒川 雄樹	理 渡邊 陽介	文 齋藤 理	文 加藤真紀子	文 谷田部光則	文 三好 孝尚	文 大畑 真人
3 年	特進文 油野 雅子	特進理 松崎 一寿	理 後藤 聡志	理 新井 孝文	文 松嶋 暢夫	文 小口 哲生	文 小林 泰一	文 小泉 宏太		
1 年学年付 加藤 晃・水野 正実・大神田 久			2 年学年付 辺見 和也・高橋 祐実			3 年学年付 中川 正基・大神田 久・宮川 浩子				

平成 28 年度		1 学年主任 松嶋 暢夫			2 学年主任 山下雄一郎			3 学年主任 大森 康勝		
	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組	8 組	9 組	10 組
1 年	特進 高木 宏	特進 小泉 宏太	山内和貴子	樋口 弘奈	三好 孝尚	檜垣 英治	小林 泰一	平川 慧	宮川 浩子	
2 年	特進文 山本 翔平	特進理 高橋 勝也	理 八幡 健斗	理 新井 孝文	文 伊藤 悠	文 梅田 祐司	文 阿部 栄祐	文 菅原由紀子	文 後藤 聡志	
3 年	特進文 金田 真幸	特進理 長島 澤	理 西島 泰明	理 黒川 雄樹	理 渡邊 陽介	文 齋藤 理	文 加藤真紀子	文 小口 哲生	文 大畑 真人	文 金箱 信
1 年学年付 加藤 晃・水越 秀夫			2 年学年付 辺見 和也・谷 真美			3 年学年付 中川 正基 谷田部光則				

平成 29 年度		1 学年主任 長島 澤			2 学年主任 松嶋 暢夫			3 学年主任 山下雄一郎		
	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組	8 組	9 組	10 組
1 年	特進 黒川 雄樹	特進 加藤真紀子	後藤 聡志	阿部 栄祐	金箱 信	金田 真幸	西島 泰明	伊藤 悠	渡邊 陽介	
2 年	特進文 小泉 宏太	特進理 高木 宏	理 樋口 弘奈	理 宮川 浩子	文 小林 泰一	文 小口 哲生	文 山内和貴子	文 平川 慧	文 三好 孝尚	
3 年	特進文 山本 翔平	特進理 高橋 勝也	理 八幡 健斗	理 新井 孝文	文 菅原由紀子	文 大畑 真人	文 梅田 祐司	文 齋藤 理	文 大森 康勝	
1 年学年付 加藤 晃・谷 真美			2 年学年付 辺見 和也・檜垣 英治			3 年学年付 中川 正基				

平成 30 年度		1 学年主任 梅田 祐司			2 学年主任 長島 澤			3 学年主任 松嶋 暢夫		
	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組	8 組	9 組	10 組
1 年	特進 菅原由紀子	特進 八幡 健斗	新井 孝文	大森 康勝	西島 泰明	齋藤 理	小林 泰一	齋藤 大樹	大畑 真人	山下雄一郎
2 年	特進文 平野真紀子	特進理 黒川 雄樹	理 渡辺 誠・長島 澤	理 渡邊 陽介	文 金田 真幸	文 阿部 栄祐	文 後藤 聡志	文 伊藤 悠	文 金箱 信	
3 年	特進文 小泉 宏太	特進理 高木 宏	理 樋口 弘奈	理 宮川 浩子	文 平川 慧	文 小口 哲生	文 山内和貴子	文 山本 翔平	文 三好 孝尚	
1 年学年付 谷 真美・野村 朋棗			2 年学年付 辺見 和也			3 年学年付 中川 正基				

平成 31 年度 (令和元年度)		1 学年主任 大森 康勝			2 学年主任 梅田 祐司			3 学年主任 長島 澤		
	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組	8 組	9 組	10 組
1 年	特進 小泉 宏太	特進 平川 慧	樋口 弘奈	山本 翔平	野村 朋棗	三好 孝尚	宮川 浩子	松嶋 暢夫	小口 哲生	
2 年	特進文 菅原由紀子	特進理 八幡 健斗	理 西島 泰明	理 大畑 真人	理 新井 孝文	文 齋藤 理	文 小林 泰一	文 齋藤 大樹	文 山内和貴子	文 山下雄一郎
3 年	特進文 平野真紀子	特進理 黒川 雄樹	理 渡邊 陽介	理 高木 宏	文 金田 真幸	文 後藤 聡司	文 伊藤 悠	文 阿部 栄祐	文 金箱 信	
1 年学年付 谷 真美・添田 敦			2 年学年付 辺見 和也・小峰 浩義			3 年学年付 中川 正基				

令和 2 年度		1 学年主任 金箱 信			2 学年主任 大森 康勝			3 学年主任 梅田 祐司		
	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組	7 組	8 組	9 組	10 組
1 年	特進 黒川 雄樹	特進 平野真紀子	高木 宏	谷 真美	金田 真幸	若菜 翔太	伊藤 悠	齋藤 大樹	長島 澤	後藤 聡志
2 年	特進文 阿部 栄祐	特進理 平川 慧	理 山本 翔平	理 樋口 弘奈	理 宮川 浩子	文 松嶋 暢夫	文 野村 朋棗	文 小口 哲生	文 三好 孝尚	
3 年	特進文 菅原由紀子	特進理 八幡 健斗	理 大畑 真人	理 渡邊 陽介	理 新井 孝文	文 小林 泰一	文 山内和貴子	文 西島 泰明	文 山下雄一郎	文 齋藤 理
1 年学年付 小峰 浩義・後藤 明仁			2 年学年付 辺見 和也・添田 敦			3 年学年付 小泉 宏太				

■ 10年間事務職員一覽

(敬称略)

■ 平成21年度

事務長	岡田 康三 (~11/15) 東 英一 (11/16~)
経理長	大村 正文
特任課長	
特任課長補佐	坂田 炎
主任	長澤 慎
係員	阿部理恵子 市野 祐輔 水越ゆかり 山口 祐子 荒井 和夫 嶋崎由喜江
用務員	内藤 喜典

■ 平成22年度

事務長	東 英一 (~12/12) 沼子 博 (12/13~)
経理長	大村 正文 (~12/12) 東 英一 (12/13~)
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	
主任	外林 剛 (12/13~) 長澤 慎
係員	阿部理恵子 市野 祐輔 (~12/12) 水越ゆかり 山口 祐子 荒井 和夫 嶋崎由喜江
用務員	内藤 喜典

■ 平成23年度

事務長	沼子 博
経理長	東 英一
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	外林 剛 (10/1~)
主任	外林 剛 (~9/30) 長澤 慎 山口 祐子
係員	阿部理恵子 (~5/31) 水越ゆかり 荒井 和夫 黒田ゆり枝 (10/1~) 嶋崎由喜江
用務員	内藤 喜典 (~1/31) 市川 博文 (2/1~)

■ 平成24年度

事務長	沼子 博
経理長	東 英一
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	外林 剛 (~6/30)
主任	長澤 慎 山口 祐子 (~12/31)
係員	市野 祐輔 (8/1~) 水越ゆかり 荒井 和夫 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江
用務員	市川 博文

■ 平成25年度

事務長	沼子 博
経理長	東 英一
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	長坂 憲一 (10/1~)
主任	長澤 慎 (~9/30)
係員	市野 祐輔 水越ゆかり 荒井 和夫 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江
用務員	市川 博文

■ 平成26年度

事務長	沼子 博 (~5/16) 大熊 智之 (5/17~)
経理長	東 英一 (~5/16) 沼子 博 (5/17~)
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	長坂 憲一
主任	市野 祐輔 水越ゆかり
係員	高橋 克徳 荒井 和夫 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江
用務員	市川 博文

■ 平成 27 年度

事務長	大熊 智之
経理長	沼子 博
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	長坂 憲一
主任	市野 祐輔 水越ゆかり
係員	高橋 克徳 荒井 和夫 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江
用務員	市川 博文 (~3/31)

■ 平成 28 年度

事務長	大熊 智之
経理長	沼子 博 (~3/8) 大熊 智之 (3/9 ~)
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	長坂 憲一
主任	市野 祐輔 水越ゆかり
係員	高橋 克徳 荒井 和夫 (~5/13) 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江

■ 平成 29 年度

事務長	大熊 智之
経理長	大熊 智之
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	長坂 憲一 (~6/30)
主任	市野 祐輔 水越ゆかり
係員	高橋 克徳 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江

■ 平成 30 年度

事務長	大熊 智之
経理長	大熊 智之 (~11/14) 飯塚和一郎 (11/15 ~)
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	市野 祐輔 (10/1~)
主任	市野 祐輔 (~9/30) 水越ゆかり
係員	高橋 克徳 真鍋 尚貴 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江

■ 平成 31 年度(令和元年度)

事務長	大熊 智之
経理長	飯塚和一郎
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	市野 祐輔 水越ゆかり (10/1~)
主任	水越ゆかり (~9/30)
係員	高橋 克徳 真鍋 尚貴 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江

■ 令和 2 年度

事務長	大熊 智之
経理長	飯塚和一郎
特任課長	坂田 炎
特任課長補佐	市野 祐輔 水越ゆかり
係員	高橋 克徳 永吉 直文 真鍋 尚貴 (~9/30) 黒田ゆり枝 嶋崎由喜江

編集後記

本校も2020年度で創設60周年となりました。50周年は記念式典や祝賀会が行われ華やかなお祝いとなりましたが、今年は新型コロナ禍の自粛ムードの中での60周年となりました。60周年はこの記念誌を手にとった方々が心の中でお祝いしていただければと思います。

今回の記念誌は50周年から60周年までの10年間に焦点を当てて編集しました。この10年間は明誠高校が大きく飛躍した10年間でもありました。統一テストから基礎学力到達度テストへと推薦入学の方法が変わりましたが、それにうまく乗ることができ、日本大学への進学率が飛躍的に伸びたすばらしい10年間だったと思います。それに合わせるように良い成績を収められる部活動が増えたことも特筆すべきことです。

また、この10年間は東日本大震災後の10年間とほぼ重なります。本校にも震災の被害を受けた地域から生徒が入学してきました。本校も震災とはまったく無関係ではありません。記念誌をご覧になって、震災の教訓を身近なものとして感じていただければ幸いです。2011年4月に入学した生徒は震災の影響で新入生招集日が中止となりました。そして2020年4月に入学した生徒もまたコロナの影響で新入生招集日が中止となりました。10年間の間には様々なことがありましたが、本校の生徒はその時できることに全力で取り組み柔軟に高校生活を楽しんでいきます。

創設60周年記念誌を発行するために協力してくださった元校長先生や元本校の教職員だったみなさんを始め、写真データを提供してくれたニシノフォト社の櫻井冬樹さん、本校広報部のみなさんほか尽力してくださった全ての方々に感謝の意を示すと共に、次の節目となる創設70周年まで明誠高校が一層発展していくよう教職員一同頑張っていきたいと思っています。

ありがとうございました。

創設60周年記念誌編集委員会

創設60周年記念誌編集委員（五十音順）

小口 哲生 金箱 信 小林 泰一 菅原由紀子 高橋 克徳 中川 正基
西島 泰明 山内和貴子 山下雄一郎 松嶋 暢夫 宮川 浩子 渡邊 陽介

日本大学明誠高等学校 創設60周年記念誌2020

発行 令和3年3月
発行者 日本大学明誠高等学校
創設60周年記念誌編集委員会
〒409-0195 山梨県上野原市上野原3200
TEL 0554-62-5161 (代)
印刷 株式会社ブレインズネットワーク
東京都新宿区山吹町347番地 藤和江戸川橋ビル3階・4階
TEL 03-3267-8711



日本大学明誠高等学校

Nihon University Meisei Senior High School

